第２回

中野区立中学校教科用図書選定調査委員会

日　　時：令和６年６月１９日（水）午後１時３０分～

場　　所：中野区役所７階　教育委員会室

午後１時３０分開会

○事務局　それでは、皆さん、始めさせていただきます。皆さん、こんにちは。お忙しい中、会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、これより第２回中野区立中学校教科用図書選定調査委員会を始めさせていただきます。

前回の会議を開催して以来、教科書展示会などにお出かけいただきまして、委員の皆様にはいろいろな教科書について研究をしていただいたことと思います。本日は、教育委員会へ報告いたします選定調査報告の意見集約のため協議を進めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、本日初めて委員会に出席されます委員の方をご紹介させていただきます。

○○委員、よろしくお願いいたします。

〔委員自己紹介〕

○委員　○○です。どうぞよろしくお願いします。

○事務局　ありがとうございます。

では、次第に従いまして、「事務局連絡」でございます。

まず１つ目は、調査研究項目の修正についてでございます。

委員長には事前にご了承をいただいておりますが、１番、基本的な調査項目にある（５）準拠するデジタル教材の使いやすさについてですが、「その他」の部分を「見やすさ、操作性」に変更させていただきました。変更した理由といたしましては、「その他」について、もう少々具体化したほうがいいというご意見が教育委員会などでございまして、このような変更とさせていただく運びとなりました。皆様におかれましては、事後的なご報告になり、大変申し訳ございませんでした。

（１）の修正に関するご報告は以上でございます。

では次に、（２）資料確認についてでございます。４点ございます。

まず、１点目、皆様に前回の会議でご承認いただきました、調査研究会がまとめた「教科用図書調査研究一覧」になります。こちらは一覧と報告書がセットになっております。

続きまして、２点目、学校意見の教科書に関する意見の集約資料になります。こちらは、集約の都合上、６月１９日時点でのご意見を反映し、ご用意させていただいております。

そして、３点目、教科書展示会にお越しいただいた保護者・区民の意見でございます。

こちらは、教育センターでの法定展示、特別展示と、区民活動センターなどで実施している巡回展示について、意見を集約しております。こちらも、大変恐縮ですが、集約及び指導室内の確認の都合上、6月１０日時点での意見を集約させていただいております。なお、保護者・区民意見につきましては、第３回以降の選定調査委員会でも更新した資料をご用意させていただきますので、また新しいものができましたら、皆様にご提供させていただきます。

最後に、４点目、区立中学校の「教科用図書に関する生徒意見」になります。こちらは、区立中学校２・３年生の各１学級において生徒意見を聴取した資料となります。１年生につきましては、現在、集約中でございますので、次回以降の選定調査委員会で改めて資料をご用意させていただければと思います。

本来は、これらの資料については、事前に委員の皆様にお配りして、教科書研究の資料とさせていただくべきではあったのですけれども、スケジュール等の事情で本会議での提出になってしまったことをおわび申し上げます。当日のお渡しになってしまったので、この後、１０分程度ではございますが、ご覧いただく時間を確保させていただければと思います。

最後に、今回の目標である選定調査報告書の作成になりますが、もし皆様のお許しをいただければ、最終的な資料の編集、確認については本会の委員長、副委員長、学識経験者の皆様にご一任をいただければというふうに思っております。

○委員　異議があります。４年前もそれをやって、「教科用図書選定調査報告書」というものを僕が実際に目にしたのは、わざわざ区役所に出向いて、当時の旧区役所の２階で、１１月の終わりぐらいだった気がします。９月と書いてあるのですけど、実際には１１月なんですよ。それまでに教科書は既に決まっているし、一任した方を信用していないわけではなくて、民主主義の手続としておかしいのではないかと、そういう話です。

どうすればいいかという動議をここで今提出したいのですけども、一応、委員長と学識経験者の方に原則として一任すると。その後にちょっと追加してもらいたいのですが、ただし、記載について、ここで議決したことは、一任された人が嫌でも書かなくてはいけないと。要するに、記載の議決した事項を除いて一任という形にしていただけると、議事も時間がかからないし、いいかなと思うんです。

どういうことかというと、委員から、ここでこれから教科の種目について、この教科書はどうだという意見を１人ずつ言うのだと思うんですけども、そのときに、この教科書は

絶対に駄目だというものが例えばあったとします。そのときに、その意見を、恐らくは、委員長とかは立場がある方ですから、１人の一存でそういうことを、これは駄目と書くわけにはいかないはずなんです。そういうときに、ここで議決したから、議決は、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第４条第７項に議決するという項目があるので、ここで議案を出して議決することはできるんですよ。過半数で議決可能です。そういう議決した意見に関しては、一任された人の裁量で、これは消すというふうにはできない、書き換えてもらわないといけないという形にすると、非常に筋が通っているのではないかなと思うんです。

ほかの自治体の状況をいろいろ調べたのですが、選定調査委員会の段階で、採択すべき教科書を１者、あるいは数者に絞り込んでいる自治体は結構あります。実は中野区もそうだったのです、かつては。平成１７年度より前は、選定調査委員会の段階で数者に絞り込むことになっていました。ところが、平成１７年度に、何か変な規則に変わって、それを消して、全てについて意見を書くというような感じの規則に変えているのですけど、現在でもその規則は生きていて、全てについて意見を書くことになっていますよね、この「教科用図書選定調査報告書」というものは。そこにこれは駄目という意見も書いていいはずなので、ものすごく書きにくいですけど、書くのにはすごい勇気が必要だと思うんですが、でも、それは、議決すれば、その人が書いたのではなくて、この委員会が書いたことになるわけだから、それでいいと思うので、もしも仮にそういう動議が出たときには、その議決した事項は必ず書くというふうにここで決めていただければ、そのほかについて一任すると。僕は賛成します。

それから、もう１つ話をしておくと、そんなことをしても効果はないのではないかと思うかもしれないですが、平成２４年に沖縄県の竹富町というところで八重山教科書問題というものが起こったのは、もちろん先生方はご存じだと思うんですが、ちょっと念のために言いますが、採択地区協議会が育鵬社を採択すべきだとしたのに、竹富町教育委員会が東京書籍を採択したという事件があって、これはいいのかということで、文科省がいろいろ文句を言ったり、新聞とかテレビとかでも大問題になったりして、結構大騒ぎになったことがあったのですが、そのときは、要するに、下の委員会から上に持ち上げたものを上が無視して、ないことにして、東京書籍に決定とやったおかげで大問題になったと。法律的には違法行為でも何でもなくて、それはオーケーなんです。可能なんです。だけども、大問題になったというのは、要するに道義的な問題で、下の者にやらせておきながら、そ

れを無視して上が決めるというのは道義的にどうなのかという話で、ここで僕が問題にしているのは、そういうふうに道義的な問題にされるぐらいに、この委員会には力があるんですよ。だから、その力を隠す必要はなくて、この教科書は駄目だと思ったら、そういう動議を出しますけど、そうしたら、そこで決めたら、これは何と書けばいいかというと、文言は適当に調整していただいていいのですが、この教科書は例えば推薦しないとかいう文言を一言、特記事項という欄がありますから、そこに書いていただければ、議決すれば、みんなの意見で、この委員会の総意として、これは採用するべきではないということが教育委員会に伝わるということになりますから、そういうふうにしていただきたいなと思うので、皆さんのご意見をちょっと伺って、これは動議ですので、採決していただきたいなと思います。

○事務局　まず、改めて内容を確認させていただきますと、これから皆様から各教科書の発行者についてご発言いただく。基本的には、その調整については事務局のほうで実施する。ただ、そこについて様々なご意見は出るというところで、そこについて、例えば、事務局のほうで勝手に消してほしくないというような、消したり、意味を変えるようなことは、採択という性質上、よろしくはないということですか。

○委員　そういうことはしないと思っていますけど、絶対なさらないということは信じていますが、そうではなくて、書きにくいでしょう。否定的な意見は書きにくいから、みんなの総意でということだと書けるでしょうと、そういう話です。趣旨はむしろそっちです。皆さんを疑っているわけではないです。

○事務局　というところになりますが、こちらについては。

○委員長　皆さんのご意見を聞きますか。

○事務局　はい。

○委員長　今、○○委員のほうからそういう動議が出されました。議事進行に関わることかなというふうに思っておりますけども、先ほど事務局からありましたように、本委員会としての性格といいますか、それにつきましては、事務局のほうから説明があったとおり、私どもとしては、教育委員会が採択をしていきますので、教育委員会に選定調査報告を、ここで皆さんが出される意見を集約して報告するというのがこの委員会の役割でございます。ですので、今、○○委員から、ここで出た意見の、特に議決が必要であろうというものについては、議決をしっかり採って、その意見を付していただきたいということかなと思っておりますが、○○委員、そういうことでよろしいですか。

○委員　そうです。そういうことです。

○委員長　これについて、何かご意見はございますか。

○委員　すみません、例えば、私が否定的な意見を言いました。それを、皆さんがそうだと思えば、それを載せるということですか。それとも、私１人でも。

○委員　皆さんがそうだと言わないと。

○委員　言わない限りは載せないということですか。なるほど。そうしたら、私１人がこれはちょっと嫌だなということを書いても、皆さんが同意されなければ、そこには載らないということですね。

○委員長　そういうことになります。先ほど○○委員のほうからありましたように、選定調査委員会の規則がございますので、それによると、出席者の過半数で可決となっていますので、過半数の方が同じ意見ということであれば、それを付していただくということになるだろうと、そういうご意見かなと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員　分かりました。大丈夫です。

○委員長　過半数あるかどうかをそのときに確認させていただくという進行になるかと思います。○○委員、お願いします。

○委員　○○です。教科書採択については、学校から意見を上げるとか、あるいは、調査委員会として意見を上げるとかというようなことを中心にやっていたのですが、それも随分変わってきているんですよね。以前は、学校として、この教科書が１番いい、２番目はこれ、３番目はこれと、順位をつけて出したのです。でも、近頃は順位はつけるなという指導が来ます。この教科書の特徴としてよいところを書きなさい、悪いところはあまり書くなという、何となく雰囲気が、あるいは直接来ているのかは分かりませんが、そんな雰囲気があります。ですから、やっぱり、教科書を選ぶというのは、子どもたちが４年間、それを中心にして学習をするわけですから、もっともっと率直に、この教科書のいいところはいいけど、このところは使えないよとか、そういうようなことはもっと率直に議論されるべきだと思うんですよ。そういう意味で、今の○○委員のご意見に私は賛成です。

○委員長　賛成であるという意見ですが、ほかの委員の方々はいかがですか。よろしいですか。

　そのような形で、議事進行上、皆様の意見を集約しながら、必要なときには採決をして過半数を確かめたいというふうな進行にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

　ということでございますので、事務局のほう。

○事務局　では、よろしくお願いいたします。

皆様のご意見であったり、資料の作成については、今お決まりしたような形となりましたので、そこで、最終的な意見の確認については変わらず委員長、副委員長、学識経験者の皆様にご確認いただくというところでご容赦いただければと思います。

また、最終的な資料については、先ほど○○委員からもあったように、文書公開の対象にもなりますので、全く確認できないというわけではございませんので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして会議を進めさせていただければと思います。

次は、次第の２、本日の議題である「教科書に対する意見について」です。

本日議論いただく教科は、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、美術、保健体育、技術・家庭を予定しております。教科ごとに終了させていただければと思いますので、予定時刻よりちょっと前に終了する場合や、延長して行う場合がございます。ほかに予定がございましたら、途中退出等もご対応可能ですので、お声がけいただければと思います。

では、本日の会議から、議題については委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長　恐れ入ります。それでは、時間も限られておりますので、４時までということでございますかね。時間内に終われたらと思いますので、委員の皆様、ご協力をお願いしたいと存じます。

それでは、ただいま事務局からありましたように、本日配付されておりますこの資料、調査研究一覧、それから、学校からの一覧、そして、保護者・区民、これについては、まだ意見は寄せられている途中だという話がございましたけども、あと、生徒の意見というもの、資料として４点ございますが、１０分程度でちょっと確認いただいて、お１人おひとりご意見をいただきたいということでございますが、１０分程度の時間で本日予定されております６種目の読み込みをしていただいて、その後にお１人ずつご意見をいただくという進行になりますが、よろしくお願いしたいと存じます。先ほどございましたけど、組織がこのような形で、学校の意見、保護者・区民、そしてまた、生徒、それから、「教科用図書調査研究一覧」をお作りいただいた調査研究会の方々があるわけでございますが、特に調査研究会のほうから上がってきているものを見ていただくといいのかなというふうに思っておりますが、４つとも資料を確認いただければと存じます。

それでは、大変恐縮ですが、今、この時間ですので、今、私の時計で１時４８分、４９

ぐらいですね。２時ぐらいまでに読み込んでいただいてというふうに思っておりますが、時間設定をさせていただきます。２時になりましたところで各委員のご意見をお伺いいたしますので、資料のほうの確認をよろしくお願いいたします。

それでは。

○委員　ちょっとその前に、子どもたちの資料なんですけど、生徒数は何人で、男女比は幾らか、教えてください。

○事務局　今は手元に資料がないので、確認して、この後の議論の中でご報告させていただきます。

○委員長　よろしいですか。後ほど。

○委員　２年生と３年生か。いつなのか、時期的なものを。いつアンケートを取ったかということを。

○事務局　いつアンケートを取ったかですね。分かりました。

○委員　生徒は１校なのか、何校なのか、Ａ中学校だけか、全部での人数なのか、あるいは各校からの抽出なのか、アンケートの対象を。

○事務局　では、アンケートの対象人数と実施時期、それと、男女比が分かればというところで。

○委員　それと、そのところはＡ中学校だけなのか、Ａ、Ｂが混在した人数なのか、男女比も併せて、全員の合計を。そうでないと、何人ということが全然分からない、これだけを見ても。

○事務局　分かりました。確認します。

○委員長　それでは、後ほど報告を。

○委員　それと、この設問は教育委員会からの設問ですか。

○事務局　そうです。

○委員　教科書の子どもたちへのアンケートの設問も教育委員会の作成ですか。

○事務局　はい、そのとおりです。

○委員　研究部とか、そういうところではなくて。

○事務局　はい、教育委員会のほうです。

○委員　教科全体の。

○事務局　はい。

〔資料読み込み〕

○委員長　委員の皆様、恐れ入ります。ご案内をした時間になりました。なかなか時間が取れなくて恐縮でございますけども、委員の皆様から種目ごとに、全員の皆様にご発言をいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、音楽（一般）から始めさせていただきますが、終了時刻と、この６種目ということを考えますと、お１人２分程度でご意見を賜れないかというふうに考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。特に、あまり意見が出ていない発行者についてもぜひ触れていただければというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

では、音楽（一般）についてご意見を賜りたいと思います。

まず、○○副委員長から口火を切っていただければと思います。お願いいたします。

○副委員長　では、よろしくお願いします。端的に。

まず、教育出版のほうですが、巻頭、冒頭の「学習ＭＡＰ」というものが、１年間の学びの流れが見通せるようになっていて、非常にいいのかなと思います。育成を目指し、資質、能力と、それぞれ教材との関連性が分かるように具体的に示されていました。あと、終わりのほうには、教科書で使用されている用語、記号が見開きでまとまっていて、これも使いやすいかなというふうな印象です。あと、演奏者の写真とか言葉の「音楽はメッセージ」ということが散りばめられていまして、これも子どもにとって興味深いのかなという感じです。あと、全体的にＳＤＧｓに関連する教材がうまく散りばめられているという印象を持ちました。

次いで、教育芸術社のほうですが、音楽の学びを通して社会とどんなふうにつながるかを考える、生活や社会の中の音や音楽、こんな特集に私は興味を持ちました。あと、日本の歌の中に、「涙そうそう」とか「やさしさに包まれたなら」、「花は咲く」、最近の比較的新しい、子どもたちが興味を持つような内容が取り上げられていました。あと、協働的な活動とか深い学びを引き出す「深めよう！」ということが示されていて、探求的な学びに役立つのかなと。あと、教科書の右横には「考えるポイント」が縦に示されていて、音楽的な見方、考え方を働かせて、さらに深い学びにつながる、そんな工夫がされていたかと思います。

○委員長　ありがとうございました。

続きまして、○○委員、お願いいたします。

○委員　教科書が新しくなるときに度々ニュースで紹介されたりするものの教科の中に音楽があるかと思うんですけれども、いち早く子どもたちに身近な曲を入れて取り組んで

いるということについては、両者とも非常に工夫をされていますし、扱っている写真についても非常に、今の時代に合っているものが両方の会社とも取り入れられているのかなというふうに思いました。

教育出版のほうでは、特に私が注目をしましたのは、「話し合おう」という欄が設けられているところです。私の教科は美術なんですけれども、音楽であるとか、美術であるとかは、どうしても自分の中で完結してしまいがちなところがあるのですが、こういうものがきちんと設けられて、ほかの人たちと意見を交わし合おうというようなことが積極的に設けられるということは、非常にいいことかなというふうに思います。感想についても、今までは文字で書き表すというようなことが中心になりがちだったのですけれども、言葉を交わしながら、自分が音楽に対して感じたことを考えていくということは非常にいいのかなというふうに思いました。

それから、扱っている楽曲が、私のイメージでは非常に多くなってきているのかなというふうなイメージを持ちました。非常にいいことではないかと。それが全部授業の中でこなせるわけではないですけれども、それを指導者の側の取捨選択であるとか、子どもたちの取捨選択であるとかということが容易に可能になる内容の工夫が両者ともされていたように思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

続きまして、○○委員、お願いいたします。

○委員　教育芸術社のコンセプトが、非常に新しい曲や、坂本龍一さんであれ、非常に新しい部分を作っているというところに興味が湧きました。教育出版さんもその部分はあるのですけれども、どうしても２者しかないので、比較をしてしまうのですが、教育芸術社さんのコンセプトに興味がありました。非常に新しいことを取り入れている。子どもたちがすごく歌唱をしたくなるような。クラシカルな曲ももちろん大事ですけれど、今の曲を入れているというところに関心が高まりました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長　まずは、これから６種目の意見を２分ずつ程度でということでお話をいただいているところでありますが、やはり、学校現場で学校を預かる者として、子どもを主語

とした教育活動が求められている中、生徒意見を尊重しながら、自分自身で見た教科書の意見、さらには、先生方の意見を捉えながらも、焦点を絞って説明を今後させていただければと思っています。その焦点というのは、やはり、２年生、３年生は共に、学ぶ目当てがはっきりしているであるとか、絵や写真、図や表などがたくさんある教科書で学びたいということがございますので、その視点で言わせていただければというふうに思っています。

音楽（一般）においては、教育出版のほうについては、教科書が大きく見やすい構成であり、柔らかい色が使われているということや、ユニバーサルデザインに配慮した色遣い、こういったところが非常に分かりやすいというところで、よいのかなというふうに捉えております。また、ＩＣＴの効果的な活用というところでは、２次元的なコードが、範唱というものもあり、非常に分かりやすさを感じているところです。

教育芸術社に関しましても、絵を多用していて分かりやすいということや、一貫して目的が書かれているというところが分かりやすいといったことが意見として挙げられるかと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

○○委員、お願いします。

○委員　本校でも、音楽の授業や何かで活動しているのを見ると、ここで書かれている鑑賞ではないのですけれども、やっぱり、表現とか、そういう部分で生徒同士が話し合ったりとか、ああでもない、こうでもないと言いながら試行錯誤をしながらやっていくという部分がありまして、その部分では、教育出版のほうで出ている意見交換ができるページがあるというところについては、工夫をされているなと、ちょっと興味を持ちました。

一方で、教育芸術社の意見の中に、「オーケストラの写真とともに楽器の写真が分類されており、とても見やすく理解しやすい」、こういうような意見がありましたけれども、中野区では中学２年生を対象に、音楽鑑賞教室の中で生のオーケストラを見る。その中で、教科書の題材であるような「交響曲　第５番」とか、そういうものについてもやるので、そういうところでは、生徒があらかじめ予備知識を持ってオーケストラを生で聴いて、そういう部分では理解が深くなるのではないかというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　音楽は詳しくはよく分からないところではあるのですけれども、教育出版のほうは、対話的に学べるというところはすごく大きいのかなというふうに思いました。いろいろ授業をやっていても、対話的に学んでいこうとか、いろんな話し合い方でやっていこうとかということが多いので、そんなことがうまく使えるような教科書の構成というのはいいのかなというふうに思っています。また、新しい曲とか、教育出版のほうは曲がたくさんあるなとか、目次が見やすいなとか、そのぐらいしか分からないところがあったのですけれども、見やすいというのは大事なのかなというふうに思いました。

教育芸術社のほうは、絵を多用していて分かりやすかったとか、フォントにも工夫が感じられたとか、絵があると、漫画がいっぱい載っているといいなとかと生徒の意見には書いてあったので、そんなところも生徒の興味を引く１つにはなるのではないかと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　私も、教壇に立つ身としては、生徒の意見というか、生徒の考えを第一に取り上げたいなということがまず一つなんですが、プラス、教師としてどういうことを学ばせたいかというか、どういう目当てがあるか、目的があるか、そういうことをしっかりと提示して、子どもたちもそれが分かってというところが１番大事なのかなと思っております。なので、学ぶ目当てがはっきりしているというものを生徒たちも望んでいるということなので、そこがはっきりした教科書を採択していくべきなのかなというところをまず１点で思っております。

また、その中でなんですけど、私は、教員としてなんですが、授業の中では、協働的な学びであったり、個別最適な学びということを大切にしているところです。協働的な学び、個別最適な学びということを考えたときに、教育芸術社のところにある最後の「「Ｃｈａｌｌｅｎｇｅ！！」の箇所が他の曲の紹介がされていて、探究的な学びにつながりそうだと感じた」という記述があったとおり、探究的な学びにつながるというところがとても私の中でも興味を引きました。探究的な学びを進めていくということが大事なことかなと思いましたので、こちらのほうを、こちらのほうをというか、そういう考えに至りました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

続きまして、○○委員、お願いします。

○委員　教育芸術社のほうですけども、写真、図の色合いが見やすくて分かりやすいということが印象としてありました。あとは、楽器の名前などはカテゴリーごとに説明の文字の字体を変えてあるというところが工夫としてあったので、それは見やすいなというふうに思いました。あとは、生徒の１人１台端末を活用した２次元コードを取り入れているという教科書がほかの教科でも多いのですけれども、これは２者ともありました。伴奏音源を聴くことができて、楽譜の右下にある２次元コードからは、家庭学習で活用することができるような伴奏音源は使えるというふうに考えます。

教育出版のほうだと、各学校の実態に合わせて効果的な教材を選べるように、多くの教材が掲載されているなというふうに思いました。基礎、基本が確実に習得できるように、音楽表現に関する記号というものがまとめてあるなというふうに感じました。２次元コードは、こちらも捉えられています。教育出版としては、気がついたことを友達に紹介しながら対話的に学ぶことができる「話し合おう」の欄が設けられているので、学習がしやすいというふうに考えます。あとは、思考、判断、表現、こういった力が育つような「Ａｃｔｉｖｅ！」の欄が随所にあり、学んだことや考えたことが記載できるようになっているというような工夫が感じられました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　教育出版のほうなんですが、教科書の最初のところのピアニストのメッセージの中で、「今どんな新しいことができるのだろう」というのが、子どもたちがわくわくするのではないかというふうな印象を持ちました。子どもが独りで、例えばｉＰａｄとかで振り返りができるのはどんなところかなというふうに思って、２次元コードで今朝調べてみたのですけど、動画で楽器の紹介をしているときに、ふだん見ることのできない楽器も動画でアップされていたので、その音を聴くことができるというのは、学校にない楽器を聴くことができるというのは、それも１つの経験になるのかなというふうに思ったのと、あと、歌の場合、曲が流れているところに歌詞が出ていて、そこに色づけで歌詞を追っていくので、そういう意味では、音楽が苦手なお子さんでも分かりやすいかなというふうに思いました。

教育芸術社のほうですが、変声期のところだけではなかったと思うんですけど、歌うときの姿勢とか、声の響かせ方ということを図とかイラストで説明してあったので、分かりやすいかなというふうに思いました。あと、こちらもまた２次元コードで読み取ったことなんですが、「魔王」のところで楽譜がアップされていたので、再生すると、歌っているところと同じ楽譜に色づけがされているということで、ここも苦手な子にとっては追いかけるのが分かりやすいかなというふうに思いました。やっぱり、今、子どもたちはｉＰａｄを持って帰ってきているので、家で独りで振り返るというところではすごく活用しやすいのかなということが印象的でした。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

続きまして、○○委員、お願いします。

○委員　子どもたちの、音楽とか、楽しむ自由度の高い教科というのは、得意、苦手がすごく幅広いかなと思ったので、そういう視点もありつつ見ていきました。

まず、教育出版さんなんですけど、１年生の最初のほうで、音を楽しむということから始められるのが、音楽の学びの入り口として、とても丁寧だなと感じました、苦手、得意、幅広い生徒に。また、楽譜が読めないとか、楽器が弾けないという子とかも、だんだん少しずつ楽しみ方から学んでいけるということが印象的でした。

教育芸術社さんのほうは、２・３年生の、特にオペラ、ミュージカル、歌舞伎などの扱いが印象的でした。こちらは、エンタメとしてすごく磨かれた音を体験するすばらしさ、面白いなと思って、実際にそれを見に行くなどの、そういうすばらしさにつながるといいなと感じました。また、デジタルも、聴く、見る、ワーク、それから、創作ツールが特に面白くて充実しているなと感じました。どちらも伝統芸能の音楽を扱っていたのですが、こちらは特に雅楽について詳しくて、興味深く扱っているので、こちらも大変面白く読みました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　教育出版さんに関してですけども、今、○○委員がおっしゃったように、スタートのところで、音楽が好き、嫌いというのは、すごく入りやすいような。今や、現代に合ったようなラップであったりとか、あと、ＰＣでの音楽制作であったりということからの

スタートで、すごく音楽に入りやすいなと思いました。あと、郷土の音楽や芸能とか、文化の結びつきを学ぶようなことができる、オペラであったり、バレエであったり、歌舞伎であったりというところのつながりを学べることが面白いなと思いました。あと、２次元コードのほうでは、曲の確認もできますし、ワークシートを読み取れるので、家庭学習でそちらのほうは進めやすいかなと思いました。

教育芸術社さんですけれども、いろいろな観点から音をつくる、郷土に伝わる音楽や音の果たす役割、使い方が面白かったです。普通に音楽を聴くだけではなく、そういう観点からも学べるのが面白かったです。あとは、鑑賞の説明が簡単でとても分かりやすかったです。あとは、皆さんがおっしゃるように、坂本龍一さんとかが載っており、最新の情報を学べるのだなということがすごくよく分かったので、よかったと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　教育出版のものは、「教科用図書に関する意見（学校用）」のところに書いてあることと同じなんですが、「コンピューターで表現しよう」の単元は大変に重要だと思うんですが、コンピューターと音楽というのは切っても切り離せない。例えば、ロックバンドのライブコンサートとかでも、文字で入力して、後ろで演奏するとかをやっているぐらいですから、切り離せないのですが、ここはちょっと、すごくいいのですけども、アプリありきとなっていて、掘り下げ不足かなと。実際に先生がこれで教えられるのかどうか、先生の力量がすごく必要なのではないかという感じがしました。ですから、先生がいいと言えば、これはすごくいいという感じです。

もう１つ、教育芸術社のほうとの比較になるのですけども、英語とかイタリア語の歌詞が載っているものがあるんですよね。「アメイジング・グレイス」と「帰れソレントへ」というのは両方共通で歌詞が載っていて、これはグローバル化というか、要するに、語学の興味と音楽の興味が結合するので、合唱として、取りあえず分からないけど歌うというのはとてもいいことなのではないかと思うので、そういうものは載っていたほうがいいのですが、教育芸術社のほうが多いかな。「ヘイ・ジュード」とかがあるのかなという感じで、その点では教育芸術社のほうの勝ちかなという感じがちょっとしました。

あと、教育芸術社のほうで特徴があると思ったのは、これも学校用の意見に書いてあるのですけども、「「西洋音楽史」の記載内容が、少ないが分かりやすくて良い」。本当にそ

うで、必要最小限なんだけど、すごくよく分かる感じで書かれていて、例えば、一方、教育出版のほうはヘンデルの「メサイア」とかが載っているのですが、ヘンデルの「メサイア」が「第２部最終曲「ハレルヤ」」と書いてあって、これがどういう曲かということは、やっぱりちょっと軽く説明したほうがいいのではないかと、キリスト教の話になってしまいますけども。というような感じで、分からない感じで教育出版のほうは書かれているなという感じがしました。

あと、教育芸術社は、もう１点だけで終わりにしますけど、学校用の意見に書いてあるのですが、「コード進行を条件にした創作活動」ということが書いてあるんですね。「コード進行」だけ書いてあって、それで曲をつけてみましょうみたいなものがあって、これができたらすごいなというか、創作活動という側面、鑑賞とか演奏ではなくて、作曲という側面が書いてあるのはすごい。これはいいのではないかと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

次に、○○委員、お願いします。

○委員　教育出版のほうは、教科書に「音楽のおくりもの」という題名がついているんですね。これにやっぱり編集者の意図といいますか、これは贈物ですよという、これでいっぱい楽しんでくださいねというような意図が感じられて、そういうところを受け取れるといいなというふうに思いました。それから、鑑賞のところでの意見交換についても、子どもたちが実際にそれを。大体、鑑賞というのは、聴きっ放しで終わりになってしまったりとか、無理やり感想を書かせられて終わりになったりとかいうことが多いのですが、そこまで行けば本当にいい授業になるのではないかというふうに思いました。

それから、教育芸術社のほうは、表紙を開けると、子どもたちがみんな知っている上白石何とかさんという若い俳優さんとか、宇宙飛行士の野口聡一さん、その方のメッセージが載っていて、入り口のところで子どもを引きつけるという工夫があるなというふうに思いました。あと、２次元コードについては、私自身は実際にはやってみなかったのですが、パート別にカラピアノがついているという。先ほどどなたかがおっしゃったように、子どもが実際にそれをタブレットで聴いて、自分で学習ができるということで、これは新しい試みとして、私たちのときには全くこんなことは考えもしなかったものですから、いいないというふうに思っていたのですが、今日頂いた「教科用図書調査研究結果報告」のところを見ると、カラピアノのほうの評判というか、テンポが取れないとかいうような意見も

あって、やっぱり、実際にやってみないと分からないものだなというふうな感じがしました。「２次元コードでの範唱があり、分かりやすい」というのが教育出版のほうで、教育芸術社のほうは、「カラピアノはあるが、範唱はなく」、「伴奏がないために拍子感が分かりにくかった」ということが調査研究のほうに書かれているので、カラピアノだけではちょっとどうなんだろうかというふうに思いました。

音楽については以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　ここでは音楽だけですか。

○委員長　そうです。音楽（一般）です。

○委員　音楽というのは週１であるので、学校行事とか、その他で、例えば、２週間後にまたスポット的に入ってくる時間なので、継続性というのはなかなか難しいんですね。ですから、音楽とはどういうものか、ミュージックはどういうものかということを分かりやすくということだと、家に戻って教科書を開けるかといったら、音楽なんというのは開けないと思うのね。ロッカーに置きっ放しで帰る教科のほうの本だと思っています。ですから、そういうところで、音楽の楽しみ、今、皆さんが言われたような、楽しいことの体験ができるということで。音楽の好きな子もいれば、幅が広いので、最初からアレルギーの子もいるので、そういうところに入りやすい教科書をということで、先生もその辺を意識されて、テキストとして、どっちもどっちだと思うので、どっちがいいかということは甲乙つけ難いと思いますので、意見にならないですけども、こういうイメージを大事にしていただけたらなと思っています。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

皆さん、ご協力いただきましてありがとうございます。皆さん、端的にお話しいただきました。なかなか時間のない中、資料の読み込みは大変だったかと思いますけども、この後もこんな調子で進めていければと思っております。

特に委員長としてのコメントというのはなく、皆さんから今出された意見は全て記録されておりますので、それでまた、最終的には先ほど事務局から説明があったような手順でまとめていければと思っております。

子どもの意見として、生徒の意見として、「見た目も良くて、テンションが上がるもの」

と、こういう意見も出ています。確かに、みんなが知っている最近の曲等を取り上げたり、あるいは、ＩＣＴといいますか、パソコンやコンピューター等を活用したり、両者とも様々いろいろ工夫されているなということで、○○委員がおっしゃっていましたけど、どっちも一長一短があるだろうというふうなところはあるのだろうと思いますが、皆様のご意見を全てこういった形で、何か１つにまとめていく会ではありませんので、言っていただいた意見をきちんと記述して集約していくというやり方でございますので、ぜひそんなところで、次のほうに進めさせていただいていいですか。

事務局、お願いします。

○事務局　先ほど○○委員から質問がございました生徒意見について回答をさせていただきます。

まず、実施方法についてですが、区立中学校を３校選定させていただきまして、その１校に対して１学級の子どもたちから意見をいただいております。１クラス当たりの人数でございますが、４０人学級というところになりまして、また、男女比のデータは、手持ちにはないというところでございます。

事務局からは以上となります。

○委員　トータルは何人ですか。４０人ですか、３校で。

○事務局　１校当たり４０人学級という意味です。

○委員　４０人、４０人、４０人だと、１２０人ですよね。

○事務局　はい、そうです。

○委員　では、１行目は１２０人分の５０人ということでよろしいですか。

○事務局　ただ、回答人数としては概数となっておりまして、というのも、子どもたちに、１人に１個の意見を募っていたわけではなくて、複数の教科についての回答をお願いできれば、子ども１人についての複数回答もございますので、すなわち、そのまま子どもたちが何人回答したという人数ではございません。

○委員　分かりました。

だけども、これを教育委員会でやるということはどういうことを目的としてやられたのですか。教えてください。

○事務局　こちらは、教科書を使用する子どもたちが教科書に対してどのような考えや気持ちを持っているのかというところを意見として集約するために実施しました。

○委員　それで、こういうところで使うよということの説明をしてありますか。

○事務局　はい、そうです。来年度から使うものになりますということは説明させていただいております。

○委員長　よろしいですか。

　それでは、続きまして、音楽（器楽合奏）のほうに入らせていただきます。

○委員　委員長、すみません、私、時間なので、ここで失礼させていただいてもよろしいですか。

○委員長　はい、承知しました。

　それでは、大変申し訳ございません。音楽（器楽合奏）ということで、また委員の皆様から一言ずつご意見をいただくことになります。よろしくお願いいたします。

　では、早速ですが、○○副委員長のほうからお願いいたします。

○副委員長　器楽合奏の２者は、絵とか写真という観点から、表紙が非常に対照的で、教育出版のほうは素朴なイラストで、そして楽器が描いてあって、教育芸術社のほうはアニメチックな感じで、ぱっと見ると、私なんかは素朴なイラストがいいなと思うけど、子どもたちは果たして見た感じでどっちを手に取るのかなというのは、ちょっと興味深いなと思いました。あと、器楽に関しては２次元コードはかなり役立つのではないか。特にアンサンブルのところでは。これはどちらも、全部聴いたわけではないですけれど、かなり取り入れているなという印象を持ちました。

　それぞれの教科書会社で私が興味を持ったところは、教育出版で、ストリートピアノを取り上げながら、人と社会と未来へつなぐ、そんな深く考えさせる教材があったことに興味を持ちました。あとは、ギターや琴、三味線の特徴、３つを比較して考えてまとめる、そんな考える教材、その２つ辺りに興味を持ちました。

　あと、教育芸術社のほうでは、「学びのコンパス」というんですかね。３つの資質・能力と教材との関連が示されて、学びの見通しがはっきり持てるような感じでした。あと、導入で、有名なドラマーの言葉の「音楽って何だろう？」ということを掲げて、興味や関心を引いているところがありました。あと、教育芸術社のほうのそれぞれの教材の目標が、字の周りが薄いオレンジ色で囲まれていて、目標が浮かび上がるような形で、そういう教育出版にはない工夫がありました。やはり、それぞれ工夫をしているなという印象を持ちました。

　以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　器楽合奏ということで、音楽（一般）の教科書との関わり合いも非常に大きいのかなというふうに思って見させていただきました。

どちらの会社もそうなんですけれども、特に教育出版のほうは楽譜が多くて、授業の中で取り扱えるものというのは限られているのですが、それ以外のところで、興味、関心を持った子たちがさらに深めていけるような工夫ということが非常にされているのかなというふうに思いました。それから、かなり意識して、いろんな諸外国の音楽文化、ヨーロッパ系だけではないもの、それから、我が国の楽器等についても非常に分量を割いて説明されているというものが教育出版のほうでした。

それから、教育芸術社のほうですけれども、鑑賞の授業の資料としても使えるというようなところを意識されているのか、両方の授業で関連づけながら使える教科書にするという工夫がされているような気がしました。それから、やはり２次元コード、そういうようなものをうまく使って、ただ目だけではなく、きちんと音楽を聴いたりとか、目で見られたりとかという工夫もされてきているなということを非常に感じたところです。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　両者とも写真や絵が工夫されていて、見やすさ、分かりやすさという点では、両者とも工夫が感じられるように思います。教育芸術社のほうは、それに加えて、親しみやすさというか、子どもたちにより興味、関心が高まるような工夫があるように思いました。先ほどの音楽（一般）の種目のほうでも新しいものをより取り入れていたりして、そういったコンセプトが教育芸術社にあるように思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長　教育出版のほうですけれども、教科書としては、演奏の仕方などが写真や絵を使って書かれていて、非常に分かりやすくできているなというふうに感じました。また、見開き２ページで見渡せるという工夫がされているところが非常にいいなというふうに思ったところです。また、２次元コードでは、やはり、実際に音を聴けたり、生徒が個別最適な学習に即して行うことにおける工夫がされていることを特徴的に思いました。

教育芸術社については、写真が多く使われていて、とても見やすいというところや、細かいところも、絵を使って、より分かりやすく説明していたように捉えています。また、こちらも見開き２ページでの詳細な取り組みやすさというところ。２次元コード等においては、非常に奏法説明の充実が、楽器ごとのようなスタイルで多く編集されているような部分。また、これも特徴的だなと思ったのは、中学生であろうと思われる演奏写真が端末に使われている。こちらは賛否があるかと思いますが、非常に特徴的だなというふうに捉えました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　どちらの発行者も内容は甲乙つけ難いというような印象を受けたのですが、教育出版に関しましては、我が国の楽器と、それから、西洋の楽器を対比させながら、いろいろな国の文化や何かを学習していけるような、そういう形になっているという印象を受けました。一方で、教育芸術社のほうは、生徒がその楽器を演奏するに当たって、その教科書を見て、どういうふうに自分でやっていけるか。例えば、写真の多さとかイラストの多さ、リコーダーの運指表などが見やすいという点、こういう点が工夫されているなと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　教育出版のほうはいろんな情報がたくさん入っているような気がしていて、いろんな楽器のまとまりとか、それから、いろんな外国の音楽とか、文化についてとか、そういうことがまとまって記載されていたというような感じがしています。

一方、教育芸術社のほうは、写真とかが多くて、やってみたいなと思うような、そういう持っていき方をしているのかなという感じで、面白く見られたなというふうに思いました。「音楽への興味が深まる」ということが調査研究一覧のほうにも載っていましたけど、音楽は結構大事なのかなというふうなところもちょっと感じたところです。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　どちらの発行者も本当に写真が多く使われていて、やっぱり、目で見て分かるよ

うな工夫がされているのがすばらしいなと思いました。特に教育出版のほうは、教科書は、まず１ページ目を、最初にもらったら子どもたちも開くと思うんですけども、その１ページ目に「ＬＥＴ’Ｓ ＰＬＡＹ ＭＵＳＩＣ！」ということが書いてあって、何をやるか、どういうことをやっていくのかということが写真で書かれていて、何ページにはこれが載っているという、見通しが持てるような分かりやすいものが書いてあるのがとてもいいなというふうに感じました。教育芸術社のほうも同じような形で、最初のところには興味、関心を引くような内容が書かれていると思いますが、どちらもいいところがあって、興味、関心を引くための工夫というものはどちらにもあるのだなということを感じました。

また、対話的に学べるというところで、どちらのところも工夫がされていて、「話し合おう」という欄が教育出版にはあったり、教育芸術社のほうにも対話的な学習に発展しやすくなるような形での工夫というものがされているので、対話的な、協働的な学びというものにもつながるなと感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　教育芸術社の方は、音楽を形づくっている要素についての説明ページが分かりやすいと。このページは、基礎、基本を確実に習得し、学び方、考え方を習得するためにも役立つページだというふうに考えられます。あとは、目次に続いて掲載されている学習内容、これが評価との関わりが分かりやすく掲載されているため、生徒も、学ぶ内容と、あと、評価との関わりが分かるのではないかというふうに思いました。あとは、意見交換をしながら学習を進められるという書き込みの枠があって、対話的な学習を行いやすい工夫、これがされているなというふうに感じました。

教育出版の方は、間違いやすい部分に赤色で印がつけられているので、生徒が演奏をするときに気をつけることができる工夫がされていると。演奏の基礎、基本を確実に学ぶのに有効であるというふうに考えられます。あとは、各学校の実態に合わせて効果的な教材を選ぶことができると。基礎的・基本的事項を確認しながら器楽活動に取り組めるようになっていると。ユニバーサルデザインの配慮として、奏法の写真、楽器の扱い方の写真の背景が水色になっているというようなところですかね。あとは、音楽（一般）と同じく、気がついたことを友達に紹介しながら対話的に学べる「話し合おう」の欄が設けられているというようなことが感じたところです。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　どちらも写真が多く、見やすいというのがやっぱり印象的でした。

教育出版さんのほうは、音楽（一般）のほうでもそうだったのですけれども、演奏とか、音楽に対して苦手意識がある生徒に寄り添う内容に感じました。入り口がやはり丁寧だなと思いました。あと、「学習の目的」が分かりやすいと思いました。

教育芸術社さんのほうは、演奏するときの、デジタルなんですけれども、姿勢を動画でよく確認できるということがとても印象的でした。どんな音を出すかということより、姿勢の大事さをしっかり押さえているような気がしました。こちらは、正面とか、横ですとかを確認できるので、生徒同士でチェックなどができるなと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　教育出版さんのほうは、日本や外国の音楽文化を学びながら、いろんな曲で音楽を学ぶことができるのがよいと思いました。あと、手元の写真とかがすごくアップで写されていて、どういう指遣いをすればいいかということがすごく分かりやすくて、いいと思いました。デジタル教材でも、本で書かれていることがどういうことかということがきちんと細かく説明されていて、よかったと思います。

教育芸術社さんのほうは、日本古来の楽器、三味線、琴等を実際に演奏したりとかができるような内容になっていて、よかったと思います。あと、写真や図の注釈がすごく分かりやすくて、よかったと思います。息のコントロールの仕方など、イメージしづらいことかを写真とかを用いて分かりやすく書いてある点がとてもよかったと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　教育出版のほうでは、「研究結果報告」にも書いてあるのですが、「名曲旋律集」というものがすごく特徴的な感じで、これはいいのではないかと思いました。例えば、「ファイナルファンタジー」のメインテーマとか、「ライディーン」とか、「もののけ姫」とか、すごいですよね。使えるのではないですかという感じがしました。一方、教育芸術社のほうにはそういうものは載っていなくて、それに相当するのは「笑点」のテーマなんかが載

っていて、ちょっとこれは弱いかなと思いました。

それは教え方次第なので、素材なので、載っていても載っていなくてもいいのかなと思うんですけど、他に思ったこととしては、両者を比べて、教育出版のほうは１つの楽器でやるというものがメインになっていて、みんなでアンサンブルでやるという楽譜がちょっと少なめかなというふうに思いました。一方、教育芸術社のほうはアンサンブルがすごくいっぱい載っていて、みんなでいろんな楽器でやろうというときにはこっちのほうがいいかなという感じがしました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　改めて見て、楽器というのはこんなにいっぱいあるのかということを知らされたというか、これを全部勉強するのは大変だなと思ったのですが、子どもからしてみたら、その中で興味のあるものを深めていけるような、そんなような編集になっていると思って、いいかなというふうに思いました。学校からの意見とか、調査研究のほうでも、中学生として扱うべき楽器は全て網羅されているというふうに評価されているので、そんなようなことなのかなと思いました。あと、写真がとてもあったり、必要なところは絵でそれを補って、分かりやすさというところの工夫も両者とも甲乙つけ難くあるなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　これも難しくて、甲乙つけ難い。いいところもあるし、ここはどうだろうかというところもあるので、一長一短がある。今、楽器のことがあったのだけども、楽器１つが学校の音楽準備室に、そういうところにあるのだろうかということがよぎるわけですよね。スライドで、一緒に演奏しているなんという場面は果たして教室の中であるのだろうかということも思うんです。デジタルで、Ａさん、聴いてみようよと。音楽室で独りで鳴らすと、こっちでＣＤでわあっとやると、それで部屋が、音楽室の中でトラブルになってしまうのではないかと、いろんなことを考えてしまうんですね。そこらをどういうふうに、教室の中で、音楽の５０分の授業の中で展開されているのかなと思いながら、そのときの補助としての補助教材的な教科書で、主に楽器部門。果たして、それも、ＣＤで聴いてみよ

う、ましてや、琴や篠笛をやりましょうと。笛も、コロナの問題で、スライドを見せる程度で終わり。そういう消化不良の部分はあるので、非常に難しいんですね。そういうことを考えているんですね、これを選ぶときにね。そのときは、自分はこの教科書を見て、そういう経験があるのだなと。あるいは、家の中でも、ファミリーで、お母さんがギターを抱えて歌っている家族なんというのは、小学校の頃から子どもたちは歌を歌うのが好きだし、君のところのお父さんはどうなのかと。うちは演歌ばかりだよと。俺は音楽は嫌いなんということで、そういうお子さんもいるわけだから、使いやすい、教育感のあるところでいいのではないかと、皆さんのご意見で思いますが、私は選ぶことについて、そういうことが脳裏をよぎりました。よく見計らってください。

○委員長　ありがとうございます。

それでは、皆様からのご意見、音楽（器楽合奏）ということでご意見をいただきましたけど、本当に時代の推移といいますか、発展とともに、デジタルコンテンツが大変充実しているなという印象を持っております。特に子どもたちにとっては、アップにしたりとか、先ほども出ていましたけど、姿勢とか、音楽の場合は姿勢が非常に重要だと思うんですが、そういうところを非常に分かりやすく書かれているなという印象を持ちました。甲乙つけ難いという皆さんの印象でございますけども、皆さんのご意見をまた集約してまいりたいと思います。よろしいでしょうか。

では、続きまして、美術のほうに入らせていただきます。同様に続けさせていただきます。

○○副委員長のほうから美術をお願いいたします。

○副委員長　美術は、専門の○○委員がいるので、任せようかなと思うんですけれど、さすが美術だなという大きな絵とか、表紙のこだわりというものもあったと思うんです。

まず、決定的に違うのは、開隆堂さんは１年と２・３年の２分冊で、光村図書さんのほうは１年、２・３年と、あと、資料編の３つ、それから、日本文教出版は１年、２・３年の上下という、そこは発達の段階に応じたということがあるのでしょう。子どもの意見は、社会なら社会で１冊にまとめてほしいなんということがあったのですけど、これをまとめるのはどうかなと。光村図書の資料編は３年間使えて、コンパクトにまとまっているし、カラーユニバーサルデザイン等の説明もあって、よかったなというふうに思います。

開隆堂さんのよさは、道徳とか、ほかの教科とのつながりとか、ＳＤＧｓとのつながりということがはっきり示されて、横断的な学習ができるというところ。あと、２・３年生

の最後に、「持続可能な未来へ」というところで、ＳＤＧｓについて深く掘り下げているところはいいなと思いました。

光村図書さんのほうは、ページの左上に何を学ぶかのタイトルがぽんとあって、分かりやすいというところ。あと、さすが光村図書だなと思ったのは、谷川俊太郎さんの「美しい」という詩が１年生の最初と２・３年生の最初に、国語との関連をさせながら学ばせるとか、そういったことができるのかなと思いました。

日本文教出版は、生徒の意欲を高めるような全ての教材、結構私は２次元コードを見たのですけど、「学びのはじめに」という動画が工夫されていました。特に、「風神雷神図屏風」なんかの、ただの見開きよりもぐっと迫るような動画があって、本当に時代が変わっているのだなという気がいたしました。あと、日本文教出版は、１年生の最初のほうの「３年間の学びを見てみよう」で、３年間でどんなことを学ぶかということをはっきり示して、学びの見通しが立てて、いいなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　美術の教科書の場合には、３つの発行者の中にも書かれているのですけど、印刷の仕方ですとか、見開きの使い方ですとか、折り込みの使い方ですとか、そういうもので工夫をして美術作品をよりよく見せるというようなことを昔からやっているわけですが、そういう点で言いますと、開隆堂さんのものは特殊加工で印刷されているということで、そういう工夫をされているなというふうに思いました。ただ、意見の中に、「他の発行者と比較すると鮮やかさが見劣りするのが残念」という言葉があったのですけど、昔から開隆堂の教科書というのはしっとりした色合いをずっと使っているような気がするのですが、そこら辺のところなのかなというふうに思います。

それから、今、お話にもあったのですけれども、デジタルコンテンツ、２次元コードというのは、例えば、先ほどお話しした見開きであるとか、そういうもので作品を拡大していた時代から、今はデジタル教材が非常に増えまして、タブレットを使って、自分で拡大して見ていくことができるというふうになっているのですが、それでも、例えば光村図書さんなんかの場合には、日本画は和紙を使って、手の感触、なかなかタブレットだけでは感覚として捉え切れないようなものであえてやっているということは昔からあるのですけれども、すばらしいというふうに思っています。

それから、美術の教科書の中での資料集の扱いですけれども、資料集というものが別にあったりしているのですが、光村図書のように別冊として資料を備えたり、日本文教出版のように、「学びを支える資料」ということで、巻末にこういうものを持ってきている教科書は、授業をやっているときに非常に使いやすいかなというふうに感じています。

それから、光村図書の場合には、美術が美術だけでなく、道徳であるとか、他教科とも関連づけてということで、その教科だけに限らず、さらに広げていくという工夫もされているのかなというふうに思いました。

それから、日本文教出版、いわゆる日文ですけれども、生徒作品の選び方というのは、やはりほかの会社とちょっと違うかなと。子どもたちのより身近にあるような作品が選ばれているような気がしました。

それから、どの会社もそうですけれども、東京の美術館ということで紹介をされていまして、子どもたちが、授業の中だけではなくて、終わってから主体的に自分で美術館へ足を運んでみようというような働きかけがどこの会社もされているところは特徴的だったかなというふうに思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　美術という教科ですので、これは何といっても、写真のきれいさであるとか、美しさであるとか、子どもたちが写真を見て心が動くような、そういったものが最も観点なんだろうなというふうに思うんです。そうすると、開隆堂のほうはやや評価が低いように思います。光村図書と日本文教出版は評価が高いように思うんです。光村図書のほうは道徳や各教科との関連が示されているということで、教科横断的な部分があるのだろうなというふうに思います。それから、日本文教出版のほうは、生徒の作品が非常に多いということがあって、こちらのほうは、子どもたちからすると身近に感じる部分があるだろうというふうに思いました。

以上です。

○委員長　○○副委員長、お願いします。

○副委員長　開隆堂出版については、ぱっと見、シンプルで分かりやすい内容であるなというふうに思いました。写真が多く、見やすい。それから、文字の大きさや分量も適切であり、また、余白が結構多いなというようなところも見やすさにつながったのかと思いま

す。また、写真についても、結構アップで撮るというんですか。アングルの引きというんですか。非常に印象的に、迫力を感じるように捉えることができました。２次元コードに関する部分については、ワークシートが含まれているので、非常に活用の幅が広いのではないかというふうに感じました。

光村図書ですが、こちらは本当に作品や説明の写真がとてもきれいで、巻頭の言葉なんかも非常に素敵だなというふうに感じました。教科書が作品のように出来上がっているようにも感じたところがあります。また、巻末の「学習を支える資料」というところや、別紙の資料についても、非常にコンパクトにまとまっていて、分かりやすく、使いやすいのではないかというふうに感じました。吹き出しの多様さであるとか、そういった部分は、子どもたちの漫画がいっぱいという意見もありましたけれども、親しみやすさや分かりやすさにもつながる表現なのではないかというふうに感じました。２次元コードについては、適宜コンテンツの説明があり、適切で分かりやすいのではないかと感じました。

日本文教出版ですが、やっぱり、こちらも、作品の写真は非常に鮮やかで、見た目は引きつけるなというのが印象的です。２次元コードに関する部分においても、導入において活用できるもの、まさに子どもたちが学びたいなと思えるような、そんなコンテンツが多かったように感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　どの発行者もそれぞれ独自の工夫をしている中で、私が注目したのは、それぞれの写真について、生徒の鑑賞へ向けてのアプローチがちょっと違うのかなというふうな印象を受けました。

まず、開隆堂出版については、「余白が多めで、見る側の創造力をかき立て深めることに有用である」というような学校用の意見もありますけれども、そうすると、やはり、あまり解説を入れずに、生徒がどういうふうに感じたか、どういうふうに深めていくかということを狙っているのかなと思いました。

それから、光村図書については、やはり、吹き出しを多用しているというところ、それからいくと、ある程度鑑賞を深めるためのきっかけづくり、これをやっていて、それに加えて、他教科との関連性、こういうものにもつなげるような、そういう学習のアプローチをしているというふうに感じました。

最後の日本文教出版については、学びの目標が適切に設定されていたり、鑑賞の入り口で考察の仕方とかを詳しく解説していることで、作品そのものを深く理解していこう、そういうような学習のアプローチがされているというふうに感じました。

そういうアプローチの違いなので、どれがどうというふうな甲乙はつけ難いなと感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　美術もあまり分からないところがあるのですけど、ぱっと見、すごいなと思ったのは開隆堂さんの表紙かなと思いました。触って、全然違ったので、それがやっぱり印象的には大きくて、いろんな作品が写真になったり、絵になったり、デジタルで見られたりするのですけど、分からないところの質感とか、触ってみるというところは、紙とか、そこでしか分からないところなのかなというふうに思ったときに、インパクトが大きかったなと思いました。

また、光村図書は別冊の資料というものがあって、絵や写真とか図がたくさんあるものがいいということが子どもの中の美術のところには大きくあるのかなと思うので、そういうものが資料としてあって、手元にあるので、それを見てから調べてみようかなと思うきっかけにはなるのかなというふうに思いました。

それから、日本文教出版のところでは、生徒作品が多いということと、あとは、２・３年の上下巻ということで作品をたくさん載せることができるという意味では、そういう工夫の仕方もあるのだなというふうに思いながら、すごく有名な作品がいっぱいあるほうがいいのか、生徒に身近なものがいっぱいあるほうがいいのかと考えると、使いやすいほうは先生たちにとっては一体どっちなんだろうかというふうに思いながら見ました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　どの教科書も、やはり、全体の構成が見通せるという、配慮のところにも書いてあるとおりなんですが、全て目次で分かるようになっていたり、導入の見開きで分かるようになっていたりと。ただ、日本文教出版の場合は「３年間を見通した学びが成される工夫がされている」と書かれてあるとおりなので、こちらの３年間を見通したというところ

は、すごく生徒にとっても分かりやすいものになっているのではないかというふうなことを感じました。美術はやはり、写真であったり、資料というものがとても大事になってくると思いますので、その工夫ということはどの教科書もされていて、それはすごくいいなと思います。特に、開隆堂は確かに、確かにといいますか、そのような工夫、手で触れる工夫とかということもすばらしいなと思いました。

また、２次元コードのところでは、ワークシートも含まれているという開隆堂のところは、振り返り学習であったり、あとは、学習の活用には、幅が広がるかなというようなところで、とてもすばらしいなと思いましたし、コンテンツの詳しい説明が書いてある光村図書に関しても、詳しい説明ということで、探究的な学習、より深い学習、深い学びにつながっていくのかなと思いました。

あとは、全部の教科書でＳＤＧｓにつながっていくということで、そのようなコーナーも書いていたりと、やっぱり今どきの教科書なのかなというふうな感じがありました。

東京都の美術館も、この後に見に行くような、この後のもっともっと学んでいきたいというような工夫がされているので、そちらも全てすばらしいなと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　教科用図書は授業における中心的教材になるわけなんですけど、指導者の視点と、あと、学ぶ生徒側の視点で、またちょっと変わってくるのかなというふうに、美術の３者を見て思ったのは、「学びのはじめに」という導入の部分の動画があって、これを見てから始めると、自分だけで学習しても学習に入っていけるなというふうに感じました。授業を受けているときにはなくてもいいのかなと思ったのですけど、生徒のみが自宅で学習をしたとしても、そういったことができるなというふうに考えたのが２者です。日本文教出版と開隆堂にあるというふうに考えました。

それ以外には、３者とも同じように、３分割になっている、ＳＤＧｓの項目があるというところが感じられました。あとは、光村図書は、見開きページでまとめられているというところは見やすい工夫ですね。あとは、それぞれのページでレイアウトに工夫があるというようなところが特徴として考えられました。あとは、教科書に載せ切れない作品をたくさん見ることができるということで、深く調べることができる、そういったものを２次元コードに込めているのだなというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　日本文教出版さんは、デザインとか、内面の表現に比重が多いように感じました。作品を３６０度から鑑賞できるデジタル、こちらはすごくいいと思いました。ポップアップカードを作る課題があったのですけども、これは、グリーティング的な意味でも、目的や完成が分かりやすく、創作ということもあって、また、こんなものもあるよということで、苦手な生徒さんにも、なるほど、こういうところから作ればいいんだというＥＸがあることがよかったです。２・３年生の写真を撮る課題があったかと思うんですけれども、こちらもすごく幅広く、身近なところから、だんだんこだわりを重ねて、広く深く展開していけるような課題かなと思いました。

光村図書さんは、冒頭の「うつくしい！を探しにいこう。」という入り口があったかと思うんですが、やっぱり最初のハードルが低くて、幅広く、よいなと思いました。私も、「風神雷神図屏風」、こちらは立体とか図とかが幾つもあって、多角的に鑑賞できることがよかったです。また、光村図書さんの別紙の資料はとてもよかったです。ずっと見てしまいそうでした。これで、さらに教科書とか、作品を詳しく理解した後のデジタルでのフォローという形であって、この流れはすばらしいなと思いました。デザインの意味を丁寧に自分で考えることができる、身近なものからということもよかったです。

開隆堂出版さんは、特に、鳥獣戯画の読み解き方がすごく面白かったです。そうか、昔の漫画なんだなということがとても印象的でした。こちらは、表紙も、私は、この３者の中では開隆堂出版さんが特に面白いな、印象的だなという感じでした。また、光村図書さんと同じく、デザインの意味を考える、自分で考えるというところが深くできそうで、面白そうでした。仏像へのフォーカスも印象的でした。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　開隆堂出版さんは、皆さんがおっしゃっているとおり、表紙がやはりすごく特徴的で、子どもも喜ぶかなと思いました。皆さんがおっしゃっている「風神雷神図屏風」なんですけど、３者を並べたときに、私は、開隆堂さんのものが本物と１番近いのかなと感じました。ほかのものは結構誇張されて、結構彩度が高いようなものだったので、これが

１番こんな感じじゃないのかなというふうに感じたので、書いてあったのとは違うんですね。私は見たことがないので分からなかったのですけども、そう感じました。あとは、子どもが興味を引くアニメとか現代アートを教材に組み入れて、すごく楽しそうだと感じました。あと、ワークシートがあって、使いやすそうでした。

光村図書さんは、日本文化を多く取り上げて、深く学べるところがよかったと思います。あと、身近なデザインとか、ロゴマーク、暮らしと密着しているような内容が自分事に置き換えられて、すごく楽しく学べそうでした。あとは、光村図書さんは、内容によって紙の質が変わっていまして、何種類かの紙で教科書を、サイズもちょっと違ったりとかして、すごく興味を引くような本の作り方だなと思いました。

日本文教出版さんは、有名な方の言葉が巻末に載っていて、興味を最初から引けるような内容でした。結構文字量が多くて、情報量が多いなというふうに感じました。あと、３年間の学びの見通しが、１年ではこういうことをやっていこうというふうに、最初から分かりやすくて、よかったと思います。２・３年生が上下巻に分かれているのは、ちょっと使いづらそうだなとも感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　開隆堂は表紙がすごいですね。あと、大体みんな出尽くしたような感じなんですが、水墨画とか、漫画とか、アニメの技法がきちんと書かれているということが、これはいいんじゃないですかねと思いました。あと、光村図書とも共通なんですが、建築物も美術の中に入っているみたいで、ここには隈研吾の図書館とかの写真が載っているのですが、建築物をせっかく載せるのだったら、もっといいものを載せたらいいのではないかぐらいの感じでちょっと見ていました。

あと、工業デザインというものも載っている教科書は、開隆堂と日本文教出版に「ＯｒｉＨｉｍｅ」というロボットが載っているのですけど、そういうものも非常に興味を引くので、いいのではないかと思いました。

写真については、写真の技法が、どの会社にも写真は載っているのですけど、写真は美術の１分野ですよという感じで載っているのですが、開隆堂と光村図書はきちんと技法を説明していて、絞りとか、被写界深度とか、露出とかを説明しているのですが、日本文教出版は撮ってみましょうぐらいの感じで、あまり書いていないのがちょっと投げやりな感

じで、そんな感じですね。

あと、光村図書に話を移しますが、１年生の最初は写真から入っているんですよ。写真のところの次には、有名な猫写真家の岩合さんが石巻で撮った猫のかわいい写真が載っていて、これはすごいのではないかとちょっと思いました。猫が嫌いな人もいるのかもしれないですけど。光村図書の特徴としては、先ほどおっしゃった方がおられましたが、資料にカラーユニバーサルデザインについて書かれていて、これはみんなの基礎知識にしてもらいたい、これからはと思って、工業デザインとか、ポスターとかをやる人は、真っ赤、ＲＧＢ（２５５，０，０）の赤とかを使っては駄目で、それは見えない人には黒にしか見えないから駄目なのでという知識は、中学生のときに絶対にどの会社も教えるべきではないかとちょっと思います。

あと、光村図書さんの特徴は、これも誰かがおっしゃっていましたが、ほかの科目とのつながりということで、僕は、エッシャーの敷き詰め模様、これは数学的な話なんですけども、あと、展開図とかが載っているということは光村図書のすごい特徴なのではないかと思って、これはすばらしいとちょっと思いました。あと、国語科とのつながりで、ポスターとかを作るときのコピーライティングというものまで書いてあって、当然、フォントはどういうものを選ぶかという話もあって、これだけやれば、デザイナーのちょっと入り口まで行けるのではないかぐらいの感じで、とてもいい感じがしました。

日本文教出版は、写真がきれいとおっしゃっている方がいたのですが、僕は、写真は確かにきれいなんですけど、ちょっと気になったのは、レイアウトが悪いような気がして、文字が多いのにごちゃごちゃと写真をレイアウトしている感じがして、美術の教科書にしては、もうちょっと何とかなったのではないかという感じがしました。あと、生徒が作った作品をいっぱい挙げてあるというのは、よしあしだと思うので、生徒が作った写真は、悪い言い方をすれば、そこら中にあるでしょうという感じがするので、もっといいものを見せたほうがよくないですかという感じがちょっとしました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　順序が狂いますが、光村図書で、私が見て、これはいいなと思ったのは、先ほどどなたかがおっしゃった「うつくしい！を探しにいこう。」という。この「うつくしい！」とは何なんだろうかというところから入っていくというところが、美術というものは何な

のかということを説明するのではなくて、子どもたちに、まず考えてみようよという、そういうようなところから入っているということはいいなと思いました。あと、別冊の資料も随分、本当に資料として役に立つのではないかという、そんな感じがしました。

開隆堂のほうは、教科書の最初のところで、美術というのはどういう学びをするのかということを整理して書いておりますよね。４部門あるということで、それは結構分かりやすいのは分かりやすいのですが、絵や彫刻というのが１つの部門、それから、デザインや工芸が１つの部門、そういう美しいものを鑑賞するというのが１つの部門で、あと、社会、文化というものについての関連というようなことで、４つに分けていると。

日本文教出版のほうは、同じように４つ書いてあるのだけど、一体的になっていて、学習の活動としては、表現というものと、鑑賞というものがありますと。表現、鑑賞のそれぞれに２つの分野があって、絵と彫刻、それから、デザインと工芸というようなことで分けてあって、こちらのほうが子どもたちにもすっと入ってくるのではないかというふうなことを感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　これは一長一短があって、難しいですね、美術ですから。選び方は５０人いれば５０通りあるわけだし、美しいねと言えば、俺は気に入らないよというものもあるのだから、難しいのですけど、お任せではないですが、３つとも非常に有名な会社ですので推薦しますが、特に言いますと、日本文教出版というのはブロードウェイの先に本社があるんですね。そこから全国に発信しているということを３０年ぐらい前に知りまして、ブロードウェイの先にある、中野区にある発行者ですね。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

皆さん、よく教科書を見ていただいて、すばらしいご意見ばかりでございまして、私もお話を伺って、かなり勉強になるところもありました。ありがとうございました。美術ですから、先生方がおっしゃるように、「うつくしい！を探しにいこう。」は、なかなか面白い視点だなというふうに思ったところでございます。有名人の作品がいいのか、生徒作品が多いのがいいのかというご意見もございました。皆さんのご意見はどれもそのとおりだなと思いながらお話を伺っておりまして、本当によく整理してお話しくださいました。あ

りがとうございます。

特に委員長の私の意見は、皆さんで出尽くしているなという感じがいたしますので、よろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

続きまして、保健体育をお願いいたします。

これにつきまして、○○副委員長のほうからお願いいたします。

○副委員長　４つあったので、観点を自分なりに絞ってみました。

現代人の課題である性の多様性とか、あと、スマートフォンと健康・安全、そんなところをどんなふうに記述しているのかなという比較をして、性についての固定的な考え方に１番気づかせようとしているのは大修館書店だったように思います。その後、東京書籍、Ｇａｋｋｅｎ、大日本図書、自分なりの順序をつけるとしたらそんな感じでした。あと、それぞれ、やはり、学習の目当てをしっかりやって、活動があって、振り返りという流れができているのですけど、私の見落としかもしれませんが、振り返りの各種課題があって、それの回答がきちんと出ていたのはＧａｋｋｅｎだけだったような気がします。間違っていたら指摘してください。

あと、それぞれのよさというか、東京書籍のよさは、「巻末スキルブック」、５６ページにわたって、リラクゼーションとか、心肺蘇生、命とか健康を守る、それについて、これは非常に役立つのではないかと思いました。

大日本図書のほうは、２ページにうまく単元がまとまっていて、「学習のねらい」、「つかもう」、「やってみよう」、「話し合ってみよう」とコンパクトにまとまっていて、１時間の流れがしっかりできているなと思いました。

大修館のほうは、先ほど言ったとおりで、現代課題をしっかり取り上げているということと、あと、コラムで、「体育の窓」、「保健の窓」と、大きくではないですが、読むと非常に興味深い内容がありました。あと、口絵のところで大きくＳＤＧｓを取り上げて、よりよい未来社会に向け、そんなところがいいなと思いました。

Ｇａｋｋｅｎのほうは、先ほど言ったまとめがしっかりできるということと、あと、写真と、「スポーツには、世界を変える力がある。」は、写真とメッセージで子どもたちに訴えかけている点がいいと思います。Ｇａｋｋｅｎのコラムの「ひと・もの・こと」、これも結構、あまり大きくないですけれど、読んでいくと保健体育への興味、関心が高まるのではないかと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　保健体育の教科書については、私は、それだけではないと思いますけれども、技能の習得をどんなふうに進めていくようにしているのかというところを見てみました。

東京書籍は、「見つける」、「課題の解決（「発問」、「資料・本文」、「活用する」）」というようなステップ学習をということで、ほかの会社もそうですけれども、非常に意識して作られているのかなと。それから、今、○○副委員長のほうからもあった「巻末スキルブック」というものを見ますと、新設されたということですけれども、これは今の時代の保健体育の授業に非常にいいのではないかというふうに思いました。

大日本図書ですけれども、教科書とタブレットを併用しながら学習に取り組むことができるようにということで、今、保健体育の授業なんかを見ますと、タブレットを片手に授業をやっているというところもよく見るのですが、ほかの会社もそうでしたけれども、大日本図書はそこのところがより意識されているかなと。それから、確認問題というものも、やりっ放しにならないで、技能であるとかを習得していくのにはいい方法なのかなというふうに思いました。

大修館書店につきましても、段階的に学んでいくということをかなり意識されているところです。それから、共生社会であるとか、多様性を重視しているというようなところ、それから、今の時代ですから、ストレス対処、応急手当ての部分であるとか、現代に合った部分が意識して盛り込まれているなというふうに感じました。それから、大修館書店は、保健体育から生涯スポーツへというような視点についても、ニュースポーツの取上げとかというような点では面白い視点だったなというふうに思っています。

Ｇａｋｋｅｎにつきましては、マークの使い方が非常に工夫されていて、「協働」マークであるとか、数多く使われているなと思いましたら、１０種類使われているということで書かれているのですけれども、そういうものを使って段階的にいろんな技能であるとかを習得していく、発展させていくというような工夫がされているように思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　保健体育の教科書ということなので、教室でやる保健の授業もあるわけなんです

けれども、でも、年間のほとんどは体を動かす部分が多いと思うので、そういった視点から考えると、やっぱり、シンプルで、欲張らず、学習量、情報量が適切なものがいいと思うんですね。なので、そういった面からすると、分かりやすさとかからすると、４者目のＧａｋｋｅｎは評価が低いように思いました。そうなると、家庭でも自学自習できるような２次元コード、ウェブ学習が充実しているものがいいのだろうなというふうに思います。そうなると、東京書籍と大日本図書が評価が高いように思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

○○副委員長、いかがでしょうか。

○副委員長　先ほどの美術ではございませんが、やはり、健やかさを保ち、体を育てるという視点で見ていきたいなというふうに思っているところですが、今も研究活動を進めているという視点からということもあるのですけれども、子どもが主語となるというところをもう一度基にしながら、全体的に公正に見させていただいたつもりでございます。

まず、東京書籍ですけれども、こちらは、学習の流れに沿った配置というところでは、見開きが、１単位時間の中でこんなふうに授業を進めていくといいですよということが、子どもにとって非常に分かりやすいなと感じました。見通しの持ちやすさというのは今の子どもたちに非常に大事な部分でございますので、非常にそこの部分においては評価ができるなと思います。また、２次元コードについては、動画での解説というものが非常に分かりやすいなというふうに思いました。

大日本図書でございますけれども、こちらは、教科書という視点では非常にシンプルだなという部分を感じながらも、ＩＣＴの有効活用という視点では、新たな取組かなというぐらい、いわゆる「中学校保健体育ＷＥＢ」で補完するというような作りを感じました。文科省は、ウェブであるとか、あるいは２次元コードでの読み取りは教材であって、教科書ではないという言い方はあるわけですけれども、他の発行者に比べながらも、やはり、これからの時代を先取りしていこうという思いがあるのかもしれないというふうにも感じるような内容で作られているように思いました。こちらについても、目標であるとか、各章単元の課題が明示されているような部分、それから、見開きの右ページが資料というような形で、構成がユニバーサルになっているので、３年間を通して使う教科書でもございますので、子どもたちが取り組みやすいのではないかというふうに感じました。

それから、大修館書店でございますが、こちらは、また違う視点で、様々な記述や、作

成の図版等も含めて、共生社会とか多様性といったものをかなり重視しているなというような感じをいたしました。そんな中でですけれども、やはり、視認性の高いユニバーサルフォントなんかを採用していたりであるとか、あと、見出しや文章が簡潔なので、子どもたちにとって、ビジュアル的にも非常に使いやすいのではないかと感じられています。また、２次元コードの部分で面白いなと思ったのは、クイズ形式で出題が入っているという。これはなかなか今風だなという気もいたしますし、こちらは、子どもたちも、授業の最後に先生が使うのにも、とても活用しやすいなというふうに感じました。

最後ですけれども、いつの間にかアルファベット表記になっているＧａｋｋｅｎですが、こちらにつきましては、見開きが１単位、２ページでの構成というところ、見通しを持って学習ができるような配慮というところを感じているところであります。また、章ごとに「章デジ」というものが設けられていて、やはり、こちらもデジタルコンテンツの活用には少し力を入れ始めているのかなといった評価ができているところです。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

○○委員、お願いします。

○委員　技能の習得とか、学習の流れという部分では、それぞれの会社が工夫をされていると思うんですが、その中で、東京書籍に関しては、体育の授業では、特に教科書を持っていって実技の授業をやるということはあまりないと思うんですけど、それでもやはり、見開きが１単位時間どいう構成というのは工夫されているなというところだと思います。また、２次元コードや、それから、大日本図書にも関わるのですけれども、今は体育の授業でも、生徒がやっぱり１人１台端末を持って授業に参加して、それを活用してという場面が多いので、そういう部分では、その活用を意識した構成、内容というのはすごく工夫されているなと思いました。特に大日本図書では、「中学校保健体育ＷＥＢ」で補完するという形、これも新しい取組だと思うんですが、ここは余談になってしまうのですけれども、学校の中では大丈夫かなと思うんですが、もし家庭で何かを学習するときに、Ｗｉ－Ｆｉ環境がないと、中野区のタブレットはなかなか難しいのかなと思ったりもしました。

大修館書店に関しては、やはり、ニュースポーツというところが、生涯スポーツに向けてというところで工夫されているところだと思いました。

また、同じ生涯スポーツへの取組というところで、Ｇａｋｋｅｎは高校で学習することを入れて、すぐ上の高校に進学するほとんどの生徒に対して、そういうところで、次の上

級学級でこんなことをやるよというつながりを持たせるという見通しを持たせる取組をしているのだなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　体育ということなんですけど、Ｇａｋｋｅｎは文字の行間がちょっと広い感じがしていて、こういう感じで、ふわっと読めるような感じで持っていくのだなというのは、なるほど、文章が苦手な子でもいいのかなというふうに思ったのですが、初めにタイトルがあったほうが分かりやすくて、１ページの作りとしてはなかなかちょっと受け入れづらいというか、旧式な人間としてはちょっと受け入れづらかったなというふうに思うのがＧａｋｋｅｎだったと思います。

あとの３者は、構成がものすごくよく分かりやすくて、色で分かっていて、開いても、全部同じ構成になっていて、分かりやすいなというふうに思いました。

東京書籍の２０のスキルは、自分もちょっと持っていたいなと思えるような、いいなと思って、健康番組を見ているような気持ちになりながら、１つひとつが、ちょっとしたことなんですけど、そうだったよなと、大人でも気づかされるようなことが載っているなというふうに思いました。

それから、大日本図書は、写真とか絵とか資料がものすごく多いなというような感じで、字が多いというよりは、資料みたいなものが充実しているような感じがしていたので、わあ、字だというふうなものが苦手で体育が大好きというような子にとってはいいのかなという感じもちょっとしました。

それから、大修館書店は、問題がこんなにも体育にはあるのかと思うようなページが章の最後のところにあって、体育というのは、体を動かしたりとか、豆知識でなくても、すごく問題というのがあるのだなということがよく分かったので、どういうふうなタイプの教科書を体育の先生が保健の授業として使いやすいのかなというところを考えるのがいいのかなと。それぞれが工夫をしているのだろうなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　教科書を全体的に見たときに、イラストも多くて、私にとってはという言い方も

変なんですけど、情報量がすごく多いんだな、体育というのはこんなにいろんなことを学ぶところなんだなという印象を１番持ちました。その中で、やっぱり、分かりやすさとか、それこそ構成であったり、文字の読みやすさということがすごく大事になってくるかなというふうに思っておりまして、特に、東京書籍の「巻末のスキルブック」は、いろんな委員からもありましたとおり、すごく分かりやすく、学びたかったなと。学びたかったなというのも変なんですけど、こういうものがあったら一番分かりやすく、すごくいいなというふうなことも感じました。また、Ｇａｋｋｅｎにある「探究しようよ！」というものが章の最後にあるのですが、１つの章が終わるところに、各単元の終わるところにそれがあって、いろいろな考えを深めることもできて、そういうところもとてもいいなというふうに感じました。全体的に見通しを持って、そして、この授業で、１つの単元で何をやる、つかむ、考える、振り返るの流れとか、そういう見通しというものを持ちやすいものがあったなと思いますので、保健の教科書も見ていてとても勉強になるなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　Ｇａｋｋｅｎからですけども、単元ごとに「話し合う活動」が入っていると。あと、「学習の課題」が書いてあるため、何を学ぶかが分かりやすい。あとは、デジタルコンテンツの動画で具体的な動きを確認することができると。また、全ての単元に「学びの活用」があり、対話的な学習を行いやすいという特徴があると感じました。

ほかの３者は結構似ていて、イラスト、グラフが豊富に掲載されているということ。あとは、掲載されているコラムで具体的な情報などが掲載されている。教材の中でポイントになる部分が分かりやすく示されている。内容を理解する上で分かりやすくなっている。それぞれに学習のキーワードというものが書いてあって、何を学習したらよいのか、見通しを持って進めるということができる。東京書籍の、実習や学習のまとめ、クイズなどができる２次元コードの掲載。あと、大日本図書も似ているような感じでした。２次元コードを活用することで、家庭での学習というものも進めることができるのではないかというふうに考えました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、心と体の健康を守るために何を学ぶかというのが、目的が分かりやすく、一貫して出ていたと思います。冒頭の使い方に出てくるマークが分かりやすいこともよかったです。

大日本図書さんは、特に、けがの応急手当やＡＥＤの使い方、熱中症の知識や手当ての仕方などが詳しく載っていて、これはぜひ今の中学生たちにしっかり学んでいただきたいと思いました。デジタルではないですけど、リンクマークから他ページ、あるいは、他教科に関連した内容のものへの誘導があって、これは、保健体育ということもあって、点と点が線になる体験になるのではないかと、ちょっといいなと思いました。

大修館書店さんは、よりよい未来にはどうすればよいかということで、保体の学びに絡めて、そういうテーマの写真と合わせていて、分かりやすかったです。また、３年生の学習でのスポーツ、医療、公衆衛生への広く深い展開というのが興味深かったです。ただ、冒頭の教科書の使い方自体が若干分かりにくさを感じたのが少し残念でした。

Ｇａｋｋｅｎさんは、ほかの３者さんと比べて、結構教科書自体が違うなと感じたのですけれども、さっき○○委員がおっしゃっていたように、字間は広め、また、フォントが優しくて、読みやすい配慮を感じました。ただ、彩色自体は、ちょっと優しい色味とか、単調さがあって、ほかの教科書全体を見て、ちょっと単調さを感じました。デジタルなんですが、ほかの３者さんは、これはいい意味でなんですけども、比較的シンプルな中で、しっかりサイトを作っているのですが、内容自体はいいのですが、トップページがちょっと見にく過ぎたというのが残念なところです。上部に目次があって、リンク先に飛ぶと、なぜか下にスクロールするという、ちょっと使いにくさというか。まず目次をすっきりさせて、飛ぶなら飛ぶで、別のページに飛んでほしいなと思いました。ワークシートのページが、プレビューで、半分下が切られているのがなぜなのかということがちょっと気になりました。全体を見てダウンロードしたいという、個人的な修正の提案というか、そういったところです。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍株式会社さんは、学習課題を最初に提示し、解説までイラスト等を用いて、分かりやすく学習ができると思いました。スキルブックがついており、こちらもとてもよかったと思います。

大日本図書株式会社さんは、ページの構成がとてもきれいで見やすかったです。写真、印刷がきれいでした。イラストを用いて、分かりやすい説明がなされていました。デジタルで確認問題が用意されており、学習の定着が行えるなと思いました。

大修館書店さんは、スポーツ選手の体験談を入れることで、まず興味がすぐに持てるような内容だったと思います。あと、運動とは直接関係のないものと比較し、運動部でない子たちにも自分事として取り入れやすいような内容だったと思います。デジタル教材では、クイズ形式にして、習熟度のチェックを楽しくできるような内容になっておりました。

Ｇａｋｋｅｎさんは、「探究しようよ！」のところで、学んだことを日常生活で生かすにはどうすればいいかという学習ができて、生活に落とし込みやすいなと思いました。Ｇａｋｋｅｎさんは文字の量が多くて、情報量がすごく多いなと感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍は、皆さんがおっしゃったように、「巻末スキルブック」が非常に印象的で、よいなと思いました。あと、教科書は、４年前も見て、今年もまた見て、時代を反映しているみたいで、東京書籍は感染症の歴史とかがすごく多めに書かれていて、いいのだけど、ほかのことに割かなくていいのか。ほかの会社より多いので、ほかのことが犠牲になっていないかとちょっと心配になったのですが、恐らく犠牲になったのは、スポーツの意義が犠牲になっていて、４年前は各者とも、オリンピックの前だったということで、やたらとスポーツの意義、国際大会の意義とか、そういうことをわあっと載せていたことがあったような感じが僕の感じではしたのですが、東京書籍さんは大分減っていて、その分、感染症の歴史が多くなっているのかなとちょっと思いました。

そういう意味で、現時点の保健体育の教科書で、スポーツの意義、国際大会のトップアスリートの写真とかを載せているのが一番多いのは大日本図書。これはやっぱり、もうちょっと減らしてもいいのではないかとちょっと思いました。大日本図書の場合は、応急救護みたいな感じの、交通事故に遭ったらどうするか、自然災害に遭ったらどうするかとか、心肺蘇生法とかのところが犠牲になって少なめになっているような感じがしました。

そういう意味で、非常にバランスが取れて、どれも危なげなく、いろいろバランスよく書かれているのは大修館書店。共生社会や多様性を重視した誰もが使いやすい教科書といえばこれかなと。特徴がなくて、あっさりしているのですけど、これかなという感じがし

ました。

Ｇａｋｋｅｎさんはやっぱり、皆さんがおっしゃっていましたが、ちょっと違う感じがする教科書で、Ｇａｋｋｅｎさんも割と、オリンピックとか、スポーツの意義的なものがやたらと多めのもので、性教育は少なめで、感染症も少なめで、その代わり心肺蘇生法とか応急処置は図が多くて、この部分に関してはこれが１番いいかなという感じがちょっとしました。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　スポーツとは何かということを大きく取り上げているものと、保健体育ではこういうふうな勉強をしていきますよということを順次に説明しているものと、２種類あるかなと思いました。

大日本図書は、「誰もが健康で住みよい世界にしよう」というスローガン的なものがまずあって、それに沿っていろいろな記述というか、内容が出てきているなという感じがしました。心肺蘇生法とか、いろいろな傷の手当てとかというのは、「誰もが健康で住みよい世界」というところを目指すと、こういうことになっていくのかなというふうなことです。

同じようにスローガン的なものは、Ｇａｋｋｅｎのところで、Ｇａｋｋｅｎは、「スポーツには、世界を変える力がある。」というんですよね。だから、先ほど○○委員がおっしゃったような国際大会とか、そういうようなところの記述が多くなってきているのかなという、そんな印象を受けました。

東京書籍のほうは、「私たちの未来とＳＤＧｓ」というところからスタートして、「テクノロジーの進化と保健体育」、そういう項目立てになっているんですよね。最後は「情報の活用」ということでの記述になって、やっぱり、「巻末スキルブック」というのは大変役に立つのではないかというふうに思いました。

あと、大修館書店のほうは、またこれも構成が違っていて、最初のところに「国際的なスポーツ大会」というのが出ていて、そこで子どもたちの興味を引き出そうとしているのかなというふうに思いました。国際的なスポーツ大会に限らず、私たちが成長していくということと、運動やスポーツというのは関連があるんですよという説明がついて、共生社会をつくっていくためにも運動、スポーツということを役立てていこうという。最後は「よりよい未来に向けて」ということで、生き方のところまでずっと入っていくという、そん

な構成になっているのかなということで。

保健体育というところの授業の中で活用するにはどうしたらいいのかというのは、どこの部分を取り上げて、子どもたちにそのときそのときの学習を深めていくかというところは、現場の先生の腕の見せどころというか、そんな感じがしています。ですから、評価については分かりませんが、教科書を比べて読んだ印象としてはそんなところです。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　私は保健体育の経験が長くて、大学を卒業してからずっとやって、そのときに、必ずＧａｋｋｅｎと教科書とルールブック、それと、学習ノート、この３つプラス実技でずっとやってきました。Ｇａｋｋｅｎには非常に慣れていて、Ｇａｋｋｅｎは好きですね、自分は。この４者は全部読ませていただきましたが、大修館書店は、高校でもあるので、そのベースになるようなことが書いてある。Ｇａｋｋｅｎは、体育に関する知識と保健に関する知識があって、それを３年間で学ぶということなんだけども、保健分野も３学年分あるんですね。それイコール、保健は健康学みたいな感じですかね。

甲乙つけ難いのですが、まず、「教科用図書調査研究一覧」のＧａｋｋｅｎの２つ目のポツに「識字障害の生徒にとって、説明文と資料との境目が分かりづらいのではないであろうか」ということがあるんですね。これは、どうしてこういう文章がここに載っているのかしらと思いました。個別支援級のお子さんというのは教科書がないんですね、基本的に。ただし、この子は力的に、他の親クラスがあって、そこの体育を受けるというときにこの教科書を準備させてあげたり、講義に行かせたり、実技を受けたりというようなことなので、こういうことはちょっといかがなものかなということで、分かればちょっと教えてほしいなと思っています。

それと、子どもたちのほうの集約された意見の中で、中学生の意見として、「発展技が多い物」というふうにコメントをしている中学生がいるのですが、これは何を意味するのだろうかと考えたときに、教科書ではなくて、実技の教科書、ルールブックのほうには難易度の高いものをやってみよう、器械運動をやってみよう、何々をやってみようというときのことで子どもが書いたのではないかというふうに私は思っています。

上の東京書籍、大日本図書、大修館書店も、それぞれ単年で使ったことがありますけども、教える側としてはＧａｋｋｅｎの１社で３年間ですね。

今は男女一緒に、クラス単位で工夫しながらやっていますし、雨が降ったときは、雨が降ったときで、グラウンドでできないときは、グラウンドなしの講義、ルールブックをするとか、ＤＶＤを見るとかという、それで技術とかという形をしています。

タブレットを生徒が持って、マット運動をするのでもタブレットを見て、これを参考にしてやりなさいよと、それは確かにいいんですけど、今度は、一緒に学んで、グループのＡさん、Ｂさん、Ｃさんをタブレットに写して批評するというのはあるんですかね、そういうシステムは。グループ学習、５人でマット運動をやっていて、Ａさん、Ｂさんの実写を見て、Ａ君はここがまずい、肩が出ているね、腕が伸びていないね、ステップがないねということはできるのですかね、今のタブレットで。どうなんでしょうか。できますか。多分それが理想なんでしょうけどね。また、それをやると、５０分の授業の中でそればかりをやっていると、またサロン的になってしまって、実技の時間が少ないということもあるので、これはあくまでも教科書をベースにしての講義ですから、現場、施設、お子さんたちに合わせてやらなければいけませんので、中野区として今後どういうふうに保健体育に取り組むか、子どもたちにどういうふうに保健体育を通じて中野区民として成長させていくかというところの、教科書は一教材ですから、これというものはないと思いますけども、いいものを選べればいいなと思っています。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

時間がだんだん迫っており、大変申し訳ないですが、もうあと１種目あるわけでございまして、私のほうからは特に。教科用図書調査一覧と、学校からお寄せの先生方のご意見はごもっともだなと思っておりまして、今の委員の皆様のご意見も大体これに集約されるようなご意見が多かったかなという印象を持っております。現代社会の様々な課題に対して、それぞれが特徴を出しているかなというふうに思っているところでございます。よろしくお願いします。

それでは最後に、技術・家庭ということで、まずは技術のほうのご意見をいただきたいと思っておりますので、また順にお願いをいたします。

○○副委員長、いかがでしょうか。

○副委員長　４つある分野の、私は特に情報のところを比較的読み比べてみました。特に情報のセキュリティーであるとか、情報モラル、これは現代の課題かなと。それの中では開隆堂出版が１番丁寧に書いていたという印象です。それ以外にも、今の生活や社会との

つながりを考えて、社会をよりよく変えていこうという意図が全体的に見えたような教科書でした。

それから、東京書籍のほうは、導入の「技術の見方・考え方」について、非常に分かりやすく解説してある中に、さらに、それぞれの分野の冒頭に見方・考え方を具体的に示して、学習の目当てをはっきりさせていました。

すみません、開隆堂のところで言い忘れたのは、ドラえもんの秘密の道具、あれは子どもたちの興味を引くかなという印象でした。

また東京書籍に戻ると、「ＳＤＧｓとＴｅｃｈｎｏｌｏｇｙ」という、持続可能な社会と技術の関連を２ページにわたって特集したページがあって、その辺は、やはり、よりよい社会づくりを意識している教科書だと感じました。

最後に、教育図書のほうは、本文プラス、４０ページにわたる「スキルアシスト」ですか、あれが端的にまとまっていて、使いやすいのではないかと。あと、「設計・計画シート」、これも使いやすいなという印象でした。最後に、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４つの編の後のＥ編として「夢をかなえる技術」というのを設けて、次の社会、高校でも学べるような、そんなことを学習するページがあったのがよかったと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　今のご意見の中にあった情報も含めまして、学習内容がどんどん増えている割に授業時数が少ない教科ですので、そこの扱いをどうやっているかというのは、それぞれの教科書会社の工夫がされているなというところが見られました。

あともう１つは、教科の内容と実生活をどういうふうに結びつけていくかというところで、東京書籍は「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」というような構成でそれぞれの編がやられていて、習っていくことが実社会と実生活に関連づけている。それから、「小学校リンク」というようなことをやって、今まで学習してきた内容と技術の内容が関連しているという結びつけが面白いと思いました。

教育図書に関しましては、技術の内容を実生活の中でどういうふうに関心を持たせていくかというところにコラムをうまく使って関連づけているところが特徴的でした。あと、今も出ましたけど、「スキルアシスト」の部分については、これについても実技教科ならではの非常に面白い部分だなというふうに思いました。

開隆堂出版につきましては、ここも、世の中を支える技術と、自分たちが今学習している内容をどう関連づけていくのかというようなところから、職業観であるとか、勤労観であるとか、働くことの大切さというようなところへつなげていくというような部分が非常に見られる教科書編成があって、面白かったです。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　週時数が少ない教科ですので、指導者にとっては、やっぱりこれは、実習、作品作りにいかに役立つことができるかという視点だと思います。実習により分かりやすく、例えばけがをしないことであるとか、どの子にとっても作業、実習がしやすい教科書だと思うので、２次元コードの充実というのは有効なものなんだろうなと思います。どの社もこの部分についてはできていると思うので、いいと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○副委員長、いかがですか。

○副委員長　東京書籍でございますが、学習が系統的に進められるように、基礎・基本から応用・発展へというスモールステップでの段階が見やすく、非常に使いやすいのではないかと感じました。また、２次元コードの充実という点でも、東京書籍はよいかなというふうに捉えました。

教育図書については、別冊を添えたり、紙面を大きくしたりすることで、分かりやすく、また、イラストも多様に使われているなどというところで、非常に興味深いなというふうに捉えました。やはりデジタルコンテンツが非常によくできていて、特に、「スキルアシスト」という項目で技能動画が入っているというのは、実習を自分で確認しながら進めることもできるのだなというふうなことも感じました。

開隆堂においても、１つひとつの図やイラスト、写真などが正確なイメージを持ちました。分かりやすく丁寧に記述されているなというところです。デジタルコンテンツについては、教科書の内容がスライド形式でまとめられているというところで、個人個人が見やすく、家庭学習でも活用ができそうだなというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　１点だけ。技術・家庭の週時数が少ない中で、他教科との関連で理科との関わりがあるのは、エネルギーのところとか、電気のところなんですね。そういう意味では、東京書籍に書いてあるエネルギーの変換効率、損失、それから、電気に関するところ、その記述が充実しているなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　どれも２次元コードというのは、やっぱり技術科なんだなと思いました。

東京書籍は、課題を持って毎時間取り組めるように考えたり、やってみたり、調べてみたりみたいなところがいいのかなというところ。自分で調べてみたり、やってみたり、あと、人と話してみたりとかということは大事なんだろうなというふうに思っています。ＳＤＧｓももちろんだなと思います。

また、教育図書は、考えさせるとかという、ポイントになるようなワードがあるというところで技術の先生たちが書いているのがすごく印象的で、そういうふうに見えるのだなと思いながら、その違いは自分には分からなかったのですけど、そういうことは大事なんだろうなと思いました。あとは、動画を見ながら自分で個別に進めていけるというところは、進度はなかなかまちまちなところもあるでしょうから、見直せるというのはいいのではないかというところです。

それから、開隆堂出版は、実践的とか体験的とか、やっぱり実技ならではというか、技術なんだろうなというところが大きくあるなということと、職業観とか勤労観とか、そこは、その先に結びついていくというのが大きいのかなと思うと、どれもなかなかというところになりますけども、次の時代へというところが見えてくるのかなと思っていました。

すみません。あまりまとまっていないですけど、以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　各委員からもあったとおりなんですが、技術は、やはり時数も少ない中で、中学校卒業後のところで、いろんな勤労観であったり、いろんな技術的なものというか、ＩＣＴの活用であったり、プログラミングであったり、それもＩＣＴの活用だと思うんですけど、それであったりというものを学ぶ教科になってくるので、その授業づくりにどの教科

書が１番いいかという視点で私も見ていた中で、２次元コードというところはやはりすごく充実しているので、どの教科書もなんですが、充実しているのだなというふうな印象を持ちました。

「調査研究一覧」の東京書籍の総合所見の中にもあるとおりなんですけど、「Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０時代の新しい授業づくりに適切な教科書になっている」というふうな形で書いてありますが、これも本当に感じていて、やはり、ＩｏＴが進んでいく中で、こういうＳｏｃｉｅｔｙ５．０時代のというところ、今後の次の時代にどういうふうになっていくか、自分がどうしていくかというところを常に考えられるような教科書になっていなければいけないと思いますので、それが工夫されているということがとてもすばらしいなと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　３者ともＳＤＧｓを意識して、環境やこれからの社会に視点を置いた内容になっているなというふうに考えます。

あとは、開隆堂は実践的・体験的な題材が取り上げられていて、課題解決を図る力を育む工夫がされているというふうに感じました。

教育図書は、大きな写真が採用されているので、生徒がイメージしやすく、技術の内容に興味を持てるように工夫がされていると。

東京書籍は、小学校でのプログラミングの体験を基盤として、問題解決に取り組めるようなプログラミングの問題が用意されていると。また、基本ページ以外にも、学習を深めるための掲示、コラムが豊富に取り上げられていると。

各者ともにデジタルコンテンツ、２次元コードが設定されていて、理解をより確かなものに深められるようにする工夫がされていると感じました。

あと、教科書の掲載内容について、それぞれの単元において目標が示されているのは東京書籍だというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

続きまして、○○委員、いかがでしょうか。

○委員　東京書籍さんは、夢をかなえるための技術、また、その最適化という見方がよか

ったです。できたらいいなという身近な例を形にしていく具体的な進め方や考え方が大変分かりやすかったです。この本の使い方、冒頭のガイダンスも分かりやすくて、よかったと思います。

教育図書さんは、技術を安心・安全に、こちらは、物理的な技術であったり、情報の技術であったりを安心・安全に使うためにということを優先しているなという印象でした。技術はなぜ何のためにあるのかという問いからの問題解決の流れがすごく分かりやすくて、よかったです。

開隆堂出版さんは、技術とは何か、どのようなものがあるか、これからどうなるといいのかという導入からの展開が分かりやすいと感じました。身近な技術、ＳＮＳであったり、ルート検索であったり、無人レジであったり、身近な技術への問いや理解が深まるなという学びがあって、よかったです。

また、３者さんとも、デジタルコンテンツなんですけれども、それぞれ独自のサイトを作っていらっしゃって、どれも充実しているので、教科書と同時にというか、必ずフォローバック的に毎回使用すると、より深まるなという印象でした。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　東京書籍さんは、単元の目標がはっきりしており、課題解決まで持っていきやすく、学習がしやすいなと思いました。あと、「自己評価シート」で自分の習熟度が分かりやすいと思いました。

教育図書さんは、単元で学ぶべき内容が最初に提示されており、分かりやすく、写真や画像が多く、視覚的にも分かりやすく、印刷がきれいで、見やすかったです。「スキルアシスト」はよかったです。

開隆堂出版さんは、文字が多く、情報量が多いと感じました。２次元コードを使い、学習内容を動画で説明しており、分かりやすく、チェック項目での習熟度の確認もしやすくて、よかったと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍、教育図書というのと、それから開隆堂と、ちょっと違う感じがして、

東京書籍、教育図書のほうは、またひどい言い方をすると、技術に夢を持ち過ぎているという感じがして、どういうことかというと、まず、問題があって、その問題を解決するものを持ってきて、さあ、作りましょうという順番でやっていて、問題からトップダウンで落ちてきて、最後に実習となっているのだけど、そんなことはできっこないと僕は思っていて、世の中にある普通の問題では。できる問題はすごく限られているということで、時数が少ないという話がありましたけど、時数が少ないから、そういう根性論みたいな感じの話にしているのではないかという感じがすごくしました。

開隆堂のほうはアプローチが違って、実習例が多いのです。だから、できることはこれだけですというものをこれだ、これだ、これだで、どれかをやりましょうということで時数が少ないのを解決していて、僕にとっては、そっちのほうがむしろ好ましいという感じがします。

実際、東京書籍と教育図書はプログラミングがすごくしょぼいという感じで、東京書籍のプログラミング、ジャバスクリプトとかは僕はすごくよく分かりますけど、ものすごく悲惨なプログラミングの課題になっていて、こんなものは駄目でしょうという感じになっていて、どうしてこんなものになってしまったのかという感じがします。

教育図書に関しては、プログラミングは、制御用のコンピューターでセンサーを使うとかという例が挙がっているのですが、それは学校にないでしょうということで、これも机上の空論のような感じがして、教育図書でいいなと思ったのは、付録の「スキルアシスト」はとてもいいなとちょっと思いました。

開隆堂のほうは、プログラミングに関しては、やっぱりマイコンボードを使うようになっているみたいなんですが、マイコンボードはないのではないかということで、実質的に時数が少ないから、プログラミングをやらないということになるのではなかろうかという感じがちょっとしました。あと、プレゼンテーションのときに僕なんかはよく使うのですが、ガントチャートとかが言葉入りでちゃんと説明されていて、これを説明しておいてくれると、僕がプレゼンをするときに役に立つというか、みんな、知っているかと言うと、はい、こちらをご覧くださいで、すぐできるからいいなという感じがちょっとしました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　東京書籍は、最初のところの、技術科というのはこういう勉強をするんですよと

いうことがちょっと細か過ぎて、分かりにくいかなという感じがしました。小学校でいろんな教科を学習した、それの発展をここではやりますよと書いてあるのだけど、それもイメージしにくいかなという感じがしました。

それから、教育図書については、ずっと出ているように、「スキルアシスト」というのが使いやすくて、子どもたちの関心を引きつける工夫になっているのではないかという感じがしました。

開隆堂のほうは、アプローチが、先ほど○○委員がおっしゃったように、ちょっと違っていて、最初は材料と加工という、そこから始まるんですよね。技術科というのは材料と加工なんですよと。あと、生物の育成は、生き物を育てるということなのかなと。エネルギー変換、ここら辺がだんだん難しくなってくるのですけど。あと、○○副委員長がおっしゃったように、情報というのを入れていますよという。その辺のところの説明が分かりやすいのは開隆堂かなというふうな印象を受けました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　今日の４教科は全て技能教科ですよね。実習というか、技能が関わる教科。技術科も実習が関わるので、やっぱり、４教科とも安全に留意しながら実習をやって、そこから体験したものを教科書を見ながら確認する。あるいは、教科書を見て学習したものから自分の実習に生かすというような教科書で、それに適した教科書で、子どもたちが確認できる、個別に支援できるような、個に応じた学習ができるような教科書を選べればいいのではないかと思っています。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。先ほどから出ておりますように、技術は非常に学習内容が増えて、社会のこの状況からも、非常に学習していただきたい内容が多いわけなんですけども、その割には時数が１番少ないといったようなことで、他教科との関連だとか、教育活動全体を通してつながっていくような、そしてまた同時に、技術科としての独自性といいますかね。いろんな教科で補える部分はあるのだけど、これは技術でしょうといったところの強みといいますか、そんなものもやはり義務教育の基礎としてきちんと身につけて、生涯にわたって豊かな人生につなげていくといったような視点が重要かなと思っておりますが、また、そういった視点で採択いただけるといいのかなと思っております。皆

さんから非常に分かりやすいご説明をいただきまして、大変助かっております。ありがとうございます。

最後に、家庭科、ちょっと時間がオーバーしておりますが、家庭科も大事な教科でございますし、ぜひ皆さんから一言ずつ、またご意見を頂戴したいと存じます。家庭科について、順にお願いいたします。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長　３者に共通して感じたのは、ガイダンスを非常に丁寧にやっているなということと、あと、食生活に力を入れている。見開きのページはどの教科も食品群のところがどんとあって、これは理科との関連でも使えるのかなという印象を持ちました。

あと、開隆堂さんのガイダンスで１番よかったのは、大谷選手の目標達成シートを取り上げて、自分で課題を決めて取り組んで、自己評価ができる、それを目指す学習、それがよかったなと思いました。

東京書籍のほうもガイダンスは丁寧で、やはり、家庭分野の見方、考え方が詳しく説明されていたということと、裏表紙のところにＳＤＧｓと家庭分野の学習との関連をうまく図示してあって、そこの２次元コードをやったら、かなりＳＤＧｓの詳しい説明が。力を入れているのだなと思いました。

あと、教育図書では、「センパイに聞こう」という、社会で家庭科の分野と関係のある世界で活躍している人の話がところどころにあって、いいなということと、あとは、ちょっと幼いかもしれませんが、シールを使ってコンテンツを考えるという工夫もあったし、あと、２次元コードでは栄養価の計算ソフトまであって、びっくりしました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　家庭科も先ほどの技術と一緒で、非常に内容量がどんどん増えていく教科かと思います。ただ、その中で、調理というものと、布を使った作品の製作というものですが、これはやはり外せないものなので、そこのところを見たのですけれども、東京書籍に関して言えば、非常に作品も多かったりしていて、分かりやすいかなというふうに思いました。いわゆるノーマルな扱い方をしているかなというふうに思いました。

それから、教育図書につきましては、非常に作業の流れが見やすい工夫がされている教科書なのかなというふうに思いました。

開隆堂も同じように、調理、それから、製作については十分な部分を取っているのですけれども、あと、ほかの教科との関連性についても、開隆堂のものについては特に意識して扱われているかなというふうに思いました。

それから、戻りますけれども、東京書籍ですが「幼児との触れ合い体験」というようなところのページをほかの２者よりも多く扱っているというのが特徴的だし、今どきのことなのかなというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

では、○○委員、お願いします。

○委員　技術と同様で、調理実習であれ、裁縫であれ、いかに実習に役立てることができるかということがポイントだと思います。ですので、安全に、けがをしないなど、そのようなことが２次元コードで読み取れる、それぞれ個別にできることがポイントのように思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長　東京書籍におきましては、小学校時代の学習が十分に身についていない生徒にとっても、迷ったり、つまずいたポイントを写真やイラストで分かりやすく解説していましたので、基礎的な内容が丁寧にできているなという印象を受けました。経験が少ない生徒も、今、非常に家庭分野においては増えておりますので、とても大事な要素ではないかというふうに思いました。しかしながら、動画ではない２次元コードであった部分がこれからの期待かなというようなところです。

それから、教育図書においては、非常に見やすく、写真とかイラストがきれいだなという印象、そんなふうに思いました。こちらは、デジタルコンテンツについては動画というようなところもあり、テーマや目当て、そういったものの重要単語が冒頭に記載されているので、分かりやすいなというようなイメージを受けています。

開隆堂においては、調理であるとか、作品の製作という教材の充実さを感じました。特に、個人的な思いもあるのですけれども、やはり、食べるということにおいては全てをやることにおけるエネルギーにつながるので、独りで準備して、独りで作って、独りで食べてを繰り返せる人になってもらいたいなと子どもには思うので、合同で調理をして、切る

だけで終わりとか、焼くだけで終わりとか、飾るだけで終わりという調理実習ではなく、自分でできるのが、教科書だけでも、デジタルコンテンツを見るとできるのではないかという期待を感じました。写真なども、切り方など、ミシンの資料などが拡大されて、そんなものもよかったなというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　３者の紙面を比較したときに、１番すっきりしていて見やすいなというのは、多分、開隆堂という印象を私は受けました。ただ一方で、内容のバランスですね。例えば、保育のこととか、いろんな身近な、生徒が取っつきやすい内容とか、そういうものを盛り込んでいるという、そこも含めての全体のバランスでいくと、東京書籍が１番バランス的にいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　家庭科なので、恐らく衣、食、住の３つに分かれての構成というようなところと、東京書籍はさらに細分化して６章ぐらいだったと思うんですけど、生活に密着していることだからこそ、より分かりやすく、写真が載っていたりとか、もっとかみ砕いて話をしてあったりとか、小学校でつまずいても、中学校では頑張れるとか、生活をしていけるとかという内容にまとめられているものがいいのかなというふうに思って見ていましたが、違いがいまいち自分にはあまりよく分からなかったところではあるのですけど、「自分の言葉でまとめよう」というような、自分に置き換えてやっていける教育図書とか、それから、みんなで「やってみよう」という協働的な学びができるような、そういうコーナーをつくっている開隆堂とか、あとは、基礎的な内容を丁寧にという東京書籍とか、どれがどうよかったのかということはなかなか難しかったですが、分かりやすいということを重きにおけるといい教科なのかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　家庭分野も、技術と同様、やはり、卒業した後に今学んだ知識をすごく生かせるというか、そういうような科目だと思っております。ただ、本当に時数が少ない中でも内

容がすごく多いので、大変だなと思いつつ、やはり、教える側がすごく使いやすいような教材が必要なのかなと思いました。家庭分野の目標にもあるとおり、「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」というふうにあって、次に幾つか書いてあるのですけども、それが学習指導要領に載っているのですが、「よりよい生活の実現に向けて」というところですので、やはり分かりやすい、取っつきやすいというんですかね、取っつきにくくないといいますか、そういう教科書になっていることがまずは大前提で必要なのではないかと思っております。そうした上では、漫画を取り上げていたり、アニメを取り上げているというのが東京書籍、教育図書にはあるということになっていますが、そのような取っつきやすさということがまず大事かなと思いますが、それとともに、内容のところで、実際に実習できる内容になっているかどうか、実際に学校でできる内容になっているかどうかということを見たところ、やはり開隆堂は少し分かりやすく、内容としてはまとまっているのではないかというような印象を持ちました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍は単元構成の系統性が分かりやすく、内容を発展させながら読み進めることができる。衣、食、住のバランスがよく配置されているということ。３編からの見通しを考えやすく作られているなというふうに思いました。あと、３者で１番ＳＤＧｓのことに関して取り上げられていて、特集ページも組まれているため、進んで学習を深められる構成になっているというふうに考えました。地域の郷土料理についても丁寧に扱われているなという印象がありました。

教育図書は、「調べてみよう」、「考えてみよう」、「見つめる」、「自分の言葉でまとめよう」というものがあって、生徒が自分の課題に気づき、深められるような内容になっていると思います。単元ごとに「めあて」、「キーワード」、「ふり返る」があり、生徒自身の気づきにつながる工夫がされていると感じました。ただ、ＳＤＧｓの表記自体はあるのですけど、関連づけた資料などが提示されていないので、家庭分野だったら１番こういうものが出しやすいのに、入れなければいけないわけではないですが、ちょっともったいないなというような印象がありました。

開隆堂は、学習の流れが分かりやすく、最新のデータを見ながら学習することができる。「考えてみよう」など、知識を生かして考え、表現できるような問いかけが各領域の最後

に設定されているというような印象がありました。これも同様に、ガイダンスのページには持続可能な社会の構築へという内容があるのですけれども、各領域、単元にはＳＤＧｓに関連するものはありませんでしたので、これも入れることができそうだなというふうな印象がありました。「生活の課題と実践」があって、生徒が自身の生活を見つめて、課題を発見したり、実践できるような内容にはなっているというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員　東京書籍さんは、何を学ぶのか、何のためにあるのかという目的が分かりやすかったです。特に、食生活の分野で、必要な栄養素に対する食材の量の表現が写真で大きくされていたのが印象的でした。また、他の発行者では初めに配置されていた家庭や家族の章が最後に来ているのが特に印象的でした。

教育図書さんでは、特に、章の中での小さな「めあて」や、また、学習の振り返りが細かくあるのが大変よかったと思います。また、社会生活のトラブルを知ることや、その予防や対策についてということも載っているのが、これも役立ちそうで、よかったです。

開隆堂出版さんは、これは、主体的・対話的な学びを深めることを目的として、また、それが分かりやすく出ていて、よかったと思います。こちらのデジタルコンテンツなんですが、ほかの教科にもあったのですが、開隆堂さんの独自サイトがありまして、これは、技術・家庭だけでやるより、他教科と併せて使うほうが、サイトがしっかりしている分、ほかの教科のときと併せて、使い方が慣れるほうがやりやすいのかなというふうに感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、学習内容の順番なんですが、中学生に必要な順で、食生活、衣生活、住生活というふうな順で学習ができるのが取り入れやすい点かなと思いました。

教育図書さんは、学ぶべき内容が最初に提示されており、分かりやすい。写真や画像を多用し、視覚的にも分かりやすく、印刷がきれいでした。

開隆堂出版さんは、単元の学習の内容が分かりやすかったです。タイトルから課題、学び、振り返りというふうに順を追って学習ができるので、分かりやすいと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍と教育図書は、これは学校用の意見にも書いてあるのですが、家族に関する分野で、多様な形の家族に関しての配慮がないと僕は思いました。描いてあるアニメの絵とか、それから、ドラマみたいな動画では、男女の役割をひっくり返して描いてあるものを選んでいたりするのですけど、それを言葉で書いてくれていない。絵で表現しているだけでごまかしている。ポリコレというものですよね。

そういう意味では、開隆堂は潔いですよね。性別役割分担がおかしいことを明言して、グラフなんかを出していたりしてやっているので、これは、家族関係、特に、中野区では本当に多様な形の家族がいるのではないかと。ここは単身者も多いですし。そういう点では開隆堂一択ではないかとちょっと思いました。

それはささいなことで、時間も足りないから、そんなところは飛ばして教えるから、いいよという話になるとすると、保育というのが家庭科の中に入っていて、どうも教育図書さんは、保育のためには典型的な家族があることが前提であるかのような順番に配列されていて、東京書籍はそれに気がついていて、ごまかして家族のことを１番後ろに回すというような構成になっている。だから、東京書籍さんは薄々気がついているという感じなんですが。どちらにせよ、工夫がされているということは分かりますが、中野区で使うにはちょっと問題があるのではないかという感じがしました。

あと、料理に関してなんですが、開隆堂さんは災害時の調理ということを書いていて、これは大人が見てもとても役に立つのではないかとちょっと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　東京書籍と、それから開隆堂は、家庭科というのは自立と共生ということで、はっきりと言葉で打ち出しているのです。開隆堂のほうは、「共生」という言葉ではなくて、「ともに支え合う生活」という言い方をしているのですが、そんなところであります。

教育図書さんは、最初に開けると年中行事が出てくるんですね、たしか。年中行事が出てきて、私たちの暮らしというのは年中行事に象徴されるようないろんなことをずっとやっていきますよねという。その暮らしをつくっていくのが家庭科の学習ですよというよう

な説明になっている。ただ、年中行事がちょっと古くてというか、このうち、実際に子どもたちがどれだけ経験するだろうかということがちょっと疑問に思う行事がいっぱい出てくるわけです、お正月のところから始まって。そんなことは、今の子どもたちに学習させていくという点ではどうなんだろうかというふうに思ったのが１つ。

あと、家族の多様性ということについて、やっぱり開隆堂が一歩先んじているなという感じを受けました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　これも、何といいますか、これだというものがなかなかなくて困っているのですけども、家族があって、家庭があって家庭科というんですかね。あるいは、食事があって温かい家庭というようなことで。こういった実技を通して、あるいは、料理実習で今日作ったから、家で今日は私が、僕が作って、お父さん、お母さんにするよと。それで十分教育は達成されたと思うのね。逆に、今度は、お父さんがやっているから、僕が家で習ったことをみんなのグループのときにやると。どうして君は料理がそんなにうまいのかと担任が聞いたときには、家ではお父さんがいつもやるし、バーベキューもやるから、ちょろいのよという。そういうところで、今日の家庭科はよかったねとか、家に帰って話ができて、そういうところで、家庭との関わりもあると思うので、それを確認するのが授業の教科書ですから、なかなか教科書はこれだというものがないのですけど、実習してきた保育だとか、いろんなものを職業訓練の中で生かす場面も出てくると思うんですね。そういうときに、教科との関連性で役立てたときに、家庭科でやったね、技術科でやったね、だから、あなたは保育園、幼稚園に行って体験学習をしますね、どうして選んだのかというと、家庭科で習ったからよく分かりましたと。やっぱり、教科と行事との関連も、子どもたちがそういうときに役立てるような教科書、あるいは授業であってほしいなと。ですから、どこでも同じなんですけどね、基本はね。と思いながら参加させていただきました。ありがとうございました。

○委員長　ありがとうございました。

３０分ほど超過をいたしまして、大変申し訳ございません。

教科用図書を本当にきちんと見ていただいて、全委員から各種目、それぞれにすばらしいといいますか、本当にある意味勉強になる視点で、皆様から貴重なご意見をいただけて

いるなというふうに思っております。ぜひ、中野区の子どもたちというものを基軸に、子どもたちにとって学びがより深くなるようなものを採択していただければというところですが、この委員会の使命として、そういった皆さんからの各方面からのご意見をいただけるということは大変重要なことかと思っております。

進行の不手際で３０分ほど過ぎましたけども、以上が本日予定しておりました種目の議事ということになります。端的に、本当にすばらしいご発言をいただき、分かりやすい発言をいただきまして、大変ありがとうございました。

それでは、事務局に戻したいと思います、

○事務局　改めまして、皆様、本日は本当にありがとうございました。

まず、第２回についてはここで終了という形にさせていただければと思います。本日の第２回の会議につきましては、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、美術、保健体育、技術・家庭が終了したということで確認をさせていただきます。

次回ですが、第３回は社会（地理、歴史、公民、地図）、道徳、第４回につきましては国語、書写、数学、理科、英語を議論いただければと思います。

あわせて、次回以降の日程ですが、改めて確認をさせていただきます。第３回は６月２５日（火曜日）午後１時３０分から、第４回は７月１日（月曜日）午後１時３０分からで予定させていただいております。会場については本日と同様に１２時から開放しておりますので、お早めにお越しいただいて教科書を閲覧していただくことも可能でございます。

また、本日の資料ですが、採択が行われる日まで公開できない文書となっておりますので、最後の第４回のときに回収をさせていただければと思います。本日はお持ち帰りいただいて構いませんが、最終日には必ずご持参くださいますようよろしくお願いいたします。

では、最後に、事前にお渡ししておりましたマイナンバー提供書をお持ちの方は、お帰りの際に私どものほうまでご提出いただければと思います。

事務局からは以上になります。何かご質問等はございますでしょうか。

○副委員長　資料は置いていってもよいということでよろしいでしょうか。

○事務局　はい。デスク上に置いていただいて、私のほうで回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、以上で第２回中野区立中学校教科用図書選定調査委員会を終了いたします。皆様、本日はありがとうございました。

午後４時３４分閉会